

平成 25 年度 調査研究

学校間の接続に関する調査研究

図画工作 美術

埼玉県立総合教育センター
教育課程担当

【図画工作・美術】

1 調査研究の視点

図画工作・美術では、関係する教師の専門性の違いから、各学校段階で指導内容・指導方法に違いがあることや、児童生徒の図画工作・美術に対する意識・考えにも各学校段階で違いがあることが以前から認められてきた。このような各学校段階における違いに係わる問題を解決するために、本センターでは、これまで小中高の学びに一貫性や連続性をもたせるための研究を積極的に行ってきた。しかしながら、各学校段階において指導内容・指導方法には具体的にどのような違いがあるのか、児童生徒の図画工作・美術に対する意識や考えは具体的にどのような違いがあるのかについての研究は十分に行われてきたとは言い難い。そこで、研究の視点として次の視点で取り組むこととした。

(1) 教師の指導内容・指導方法の違いや、児童生徒の意識・考えの違いを把握すること。

主に、学校間で教師の指導内容・指導方法に、具体的にどのような違いがあるか、児童生徒が図画工作・美術に対してどのような意識・考えを持っているかを教育課程の分析や質問紙調査で把握・分析することで明らかにする。

(2) 実態に応じた指導内容・指導方法の改善の要点等を明らかにすること。

明らかになった実態から、問題点を整理・考察し、指導計画や指導案を具体的に改善していくための要点を、関係する中教審答申や学習指導要領、先行研究を参考にしながら明らかにする。

(3) 具体的な指導内容・指導方法の改善案の作成し、それを検証すること。

具体的な指導内容・指導方法の改善案が盛り込まれた指導計画と指導案を作成し、研究授業を行い、検証する。

2 研究テーマ

図画工作・美術における学校間の円滑な接続に関する調査研究 ～学びの一貫性や連続性を踏まえた指導内容・指導方法の工夫改善～

テーマの設定にあたっては、子供の発達の段階や、各学校段階に応じた留意点が示されている、平成20年1月の中央教育審議会答申の図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の改善の基本方針のうち、次の2つに注目した。

- 図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）については、その課題を踏まえ、創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわってく態度を育むことなどを重視する。
- このため、子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成する資質や能力と学習内容との関係を明確にするとともに、小学校図画工作科、中学校美術科において領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し、〔共通事項〕として示す。

この2つの項目からは、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の、育むべき感覚、能力、関心、態度等が各学校段階で一貫して同じ内容であること、学習内容の設定に当たっては、子供の発達の段階、各学校段階の内容の連続性、育成する資質や能力を踏まえることの重要性を読み取ることができる。

本研究では、これらの内容に基づいた工夫改善を行うことが、各学校段階の指導内容・指導方法の違いに一貫性や連続性をもたらし、児童生徒の図画工作・美術に対する意識・考えを改善できるものと思い本研究テーマを設定した。

3 昨年度の取組

(1) 教師の指導内容・指導方法の違いや、児童生徒の意識・考えの違いを把握した。

① 各学校種の教育課程や指導案の比較による指導内容・指導方法等の整理・分析

ア 概要

教科名、指導者、時間数、履修形態、指導内容、学校内での展示、参加する展覧会、児童・生徒の意識（教師の観察によるもの）について、整理・分析した。

イ 主な成果（整理した結果から推測できること）

- ・ 教師が異校種の指導内容や指導方法を十分理解していない現状がある。学校種を超えた教師の交流が必要である。
- ・ 小学校では図画工作の指導に苦手意識をもつ教師が多く、中学校・高校では指導に自信はあるものの美術を苦手とする生徒の気持ちが変わりにくい現状があると考えられる。小学校では図画工作主任を中心にした研修の充実が、中学校・高校では生徒の実態に対応できる指導法の研究が必要である。
- ・ 題材は、小学校では教科書の題材をそのまま行うことが多く、中学校・高校では教師が考えた基礎的な能力の育成を踏まえた題材を行うことが多い。学びの一貫性や連続性を踏まえて題材設定を行う必要がある。

ウ まとめ

各学校種の指導内容・指導方法の違いが、数多くあることが認められた。これらの違いは、各学校種の特性や指導する児童生徒の実態に応じた違いと考えることができる。違いを生かしながら学びの一貫性や連続性をもたせる必要がある。

② 教科質問紙調査による図画工作・美術に対する児童生徒の意識調査・分析

ア 概要

調査時期 平成 24 年度 9 月～10 月

調査対象 小学 6 年生 73 名、中学 1 年生 65 人、中学 3 年生 65 人、高等学校 1 年生 73 人

調査項目 ア 教科への意識 イ 教師との関わり ウ 学習内容（題材）
エ 育成する力 オ 教科への疑問など カ 発想と技能（実技）

イ 主な成果

- ・ 図画工作・美術の学習について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童生徒は、すべての学校段階で 8 割以上であるが、「好き」と答えた児童生徒は、中学校 1 年生のときだけ約 1 割の減少していた。小学校 6 年と中学校 1 年生の間に意識の違いがあることが認められる。
- ・ 図画工作・美術の学習について、「必要」「どちらかといえば必要」と答えた児童生徒は、小学校の約 8 割から高校の 7 割へと、すべての学校段階を通じて緩やかに減少している。教師の期待とは逆の傾向である。
- ・ 図画工作・美術の学習についてのイメージは、教科として育成する資質や能力と関連するものが多かった。児童生徒が図画工作・美術の学習の意味を理解していることがわかった。
- ・ 図画工作・美術の学習で育成する資質や能力のうち、児童生徒が課題としているものを明らかにすることができた。顕著なものは小学校では技能に関すること、中学校では発想や構想の能力に関すること、高校では意欲と発想や構想の能力に関することであることがわかった。

ウ まとめ

生徒の意識・考えの違いは、多くの内容で緩やかに変化しているものと、各学校種で特徴的なものがあることがわかった。これらは教師の指導の工夫改善のヒントにしたり、指導の成果を確かめたりするのに有効と考えることができる。

(2) 実態に応じた指導内容・指導方法の改善の要点等を明らかにした。

調査や分析の結果を基に協議を行い、改善のための要点と手立てを考察した。

(協議した内容)

- 図画工作・美術で育成すべき資質や能力の認識が十分とは言えない。また、児童生徒がそれをどのくらい身に付けているかを明確に伝えることができるようにすることが必要である。
- 発達の段階に応じて、どのように図画工作・美術を学習させていくのかを明らかにしていく必要がある。
- 図画工作・美術も含め教育によって育成すべき力は、完結した力ではなく、継続する力、より学びたくなる力である。
- 生活を豊かにするためには、図画工作で感覚や感性を豊かにすることが必要と考える児童は多い。小学校の状態を維持して、中学校、高等学校でそれをどのように育てるかが要となるのではないか。



要 点 1 図画工作・美術で育成する資質や能力を誰もがわかるように周知すること



手立て 1 ア 図画工作・美術で育成する資質や能力の研究を一層進める。
イ 教師だけでなく、児童生徒、保護者、地域、社会に周知する。

(協議した内容)

- 「ものづくりの時間」という認識の改善が必要ではないか。育成する力を学校間で共有するにあたり、図画工作・美術を「ものづくり」を目的とする時間という認識は、それ自体が指導の段差を生むものになりかねないとする。
- 教師との関わりでは「褒める」ことを各学校段階で行うことが重要。教師が感性を豊かにし、児童生徒が褒めてもらいたいタイミングを見極めることが必要である。



要 点 2 図画工作・美術の指導を作品主義から活動主義に転換を図ること



手立て 2 ア 小中高の一貫した指導内容で今までの指導計画、指導案を見直す。
イ 活動主義が明確になった指導事例の作成・実施・検証をする。

(協議した内容)

- 学校現場では、伝統や文化、芸術作品に触れる機会が少ない。生涯を通じて図画工作・美術を愛好する人間を育成するためにも、年齢に応じて、芸術に出会う機会をつくることが重要ではないか。日常生活における芸術、世の中における芸術等に関連性を持たせていくことが必要である。
- 学校間の段差を無くして行くには、図画工作・美術で身に付けたい力を共有し、そのうえで学校間で作品を交流し合うことなどが有効であるとする。



要 点 3 児童生徒の発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いをつくること



手立て 3 ア 児童生徒の発達の段階と指導内容・指導方法の関係を明確にする。
イ 異校種間作品交流プログラム、芸術との出会いプログラムを開発する。

4 本年度の取組

本年度は、昨年度まとめた3つの要点・3つの手立てを基に次の取組を行った。

(1) 図画工作・美術が育成する資質や能力を明確にした学習指導案と環境づくり (**手立て1**アを基にした取組)

- 学習指導案に、図画工作・美術が育成する資質や能力の記載を明確にした。
- 図画工作室や美術室に、育成する資質や能力がわかる掲示物等の工夫を行った。

(2) 異校種作品交流プログラムの作成と実践 (**手立て2**イ、**手立て3**イを基にした取組)

- 「あっと驚くアート体験！！ ～油絵って何？」 小学校6年生
小学生に、高校生等の油絵作品や制作の様子を鑑賞させることで、新鮮な感動を体験させ、芸術に対してより主体的な心情を持つことができるようにした。また、技法や年齢を問わず、作品をつくる思いには、共通の価値があることに気付かせようとした。
- 「感じ取ろう、作品に潜む物語 ～高校生の作品を鑑賞して」 中学校2年生
中学生に、高校生の多様な作品を少人数グループで鑑賞させ、鑑賞した作品についての物語を考える活動を行った。活動を通じて、作品の隅々まで目を凝らし作者の意図や思いを探ることができるようにした。高校生の作品には、そのような活動に耐えうるだけの力やテーマの深さがあるうえに、作品の作者としての高校生の意図や思いを、中学生が聞くことができるという利点がある。

(3) 芸術との出会いプログラムの作成と実践 (**手立て3**イを基にした取組)

- 「映像表現との出会い『驚き盤』－アニメーションの基礎」 高校1年生
映像メディア表現の学習として『驚き盤』の制作と鑑賞から、アニメーションの仕組みや映像表現の特性について学ぶとともに、現代の映像表現の鑑賞も行い、学校で学ぶ映像表現と、生活や社会との関連性についての理解を深め、生涯にわたって美術を愛好していく基礎的な心情を養うようにした。
- 「わくわく中学校アートギャラリー」 小学校5・6年生
小学校5・6年生の児童を対象に、中学校の生徒の作品を鑑賞することのできる掲示コーナーをつくった。自分たちの進学する中学校の身近な先輩の思いや表現にふれることで、数年後の自分の姿を想像し、中学校美術への期待感を抱かせることができると考え実践した。
- 「版画の世界 ～美術との出会い～」 高校全学年
1年生の版画の授業の学習内容をより一層充実させ、幅広い版画の世界や、生活や社会とのかかわりが見えるようにするための文化的な環境づくりを行った。具体的には、版画の仕組みや作家作品、生徒作品等を関連付けながら展示を行い、授業等でも活用した。

5 本年度の成果と課題

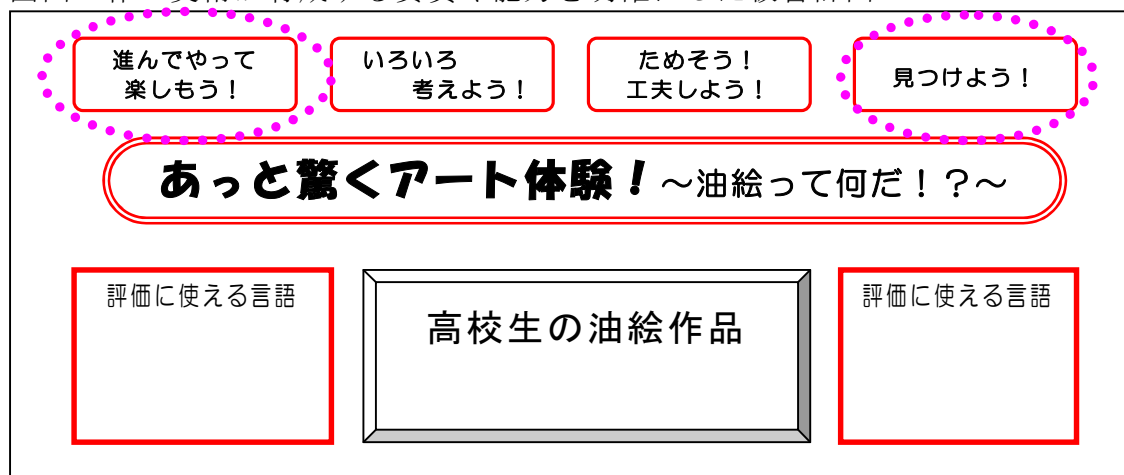
(1) 図画工作・美術が育成する資質や能力を明確にした学習指導案と環境づくり

① 成果

学習指導案は、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）」を参考にした工夫改善を行ったことで、育成する資質や能力を明確になり、具体的な指導にも生かすことができた。

環境づくりでは、育成する資質や能力に応じた次のような板書や展示をつくることができ、教師と児童生徒で育成する資質や能力を共有することができた。

ア 図画工作・美術が育成する資質や能力を明確にした板書計画



上段 図画工作で育成する4つの資質や能力を、児童の言葉で言い換えている。

加えて、本時に重点を置く資質や能力を点線の丸で強調する。

中段 題材名及び学習課題のキーワードを示す。

下段 学習課題を解決するための主役となる作品を中央に、左右に児童の語彙を豊かにするためのヒントを配置する。

イ 「鑑賞の能力」を育てる展示



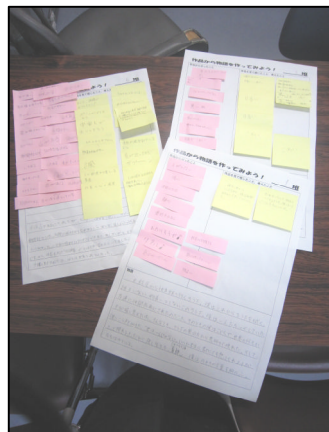
生徒が作品鑑賞の要点に自然に気付くように、効果的な「問い」を展示した。

ウ 「言語活動の充実」を促す黒板利用



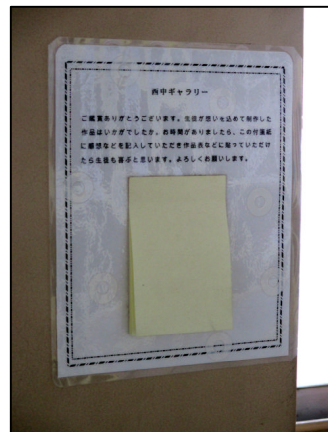
生徒が感じたことを言葉で表すときに役立つ言葉を黒板に豊富に配置した。

エ 「言語活動の充実」を促すツール



作品から読み取ったことと、それをもとに考えたことを、違う色の付箋で整理し、話し合いの論点が明確になるようにしている。

オ 交流をつくりだす展示の工夫



先生や保護者に作品のコメントを依頼する掲示である。ラミネートと付箋を上手に活用している。

② 課題

図画工作・美術が育成する資質や能力を明確にした学習指導要領と環境づくりは、その目的が、全校種で共有すべき図画工作・美術が育成する資質や能力が示している評価規準そのものであることを鑑み、趣旨をよく理解したうえで作成することが課題である。特に、環境づくりについては、図画工作・美術の担当教師だけでなく、担当以外の教師、保護者、児童生徒の反応を見ながら常に改善をしていく必要がある。地道な取組であるが、図画工作・美術の学習の意義への理解を広め、学校種を超えた学びの一貫性や連続性をつくる土台となるものなので力を注いでいくべき課題である。

(2) 異校種作品交流プログラムの作成と実践

① 成果

- ・ 「あっと驚くアート体験！！ ～油絵って何？」では、身近で魅力ある作品（近隣の高校生の作品）や作品制作のプロセス（油絵制作体験、油絵制作の実現）などを鑑賞活動に取り入れたことで、児童生徒に新鮮な感動を与えることができた。その結果、図画工作・美術への関心・意欲・態度を高めたり、美術が生涯学習であることを理解させたりすることができた。児童の様子からは、作品の存在感に感動する姿、画材や技法に強い関心を示す姿、制作への意欲を高める姿等を認めることができた。
- ・ 「感じ取ろう、作品に潜む物語 ～高校生の作品を鑑賞して」では、ワークショップ方式や少人数によるグループワークを取り入れたことで、生徒が主体的に鑑賞活動を行い、作品を深く見たり、多様な見方を共有したりすることができた。生徒の様子からは、作品についての物語をつくりながら思考力・判断力・表現力を働かせている姿、議論を通じて作品の面白さやテーマ等に気づき感想する姿等を認めることができた。

② 課題

- ・ 異校種間作品交流プログラムは、作品交流そのものが児童生徒の興味関心を刺激し高めるものであるが、ややもすると交流することが目的となってしまう。目的が「作品をつくる思いには、年齢や技法を問わず共通の価値があることに気付くようにすること」をより一層明確にすることが課題である。
- ・ 異校種間で作品の貸し借りを円滑に行うために、担当教師同士が連携することが課題である。授業の成立を目的にするのではなく、地域での図画工作・美術で育成する資質や能力や児童生徒の実態を共有し、互いの学校種のよさが生きるような授業ができることが望ましい。

(3) 芸術との出会いプログラムの作成と実践

① 成果

- ・ 「映像表現との出会い『驚き盤』ーアニメーションの基礎」では、『驚き盤』の制作と鑑賞に加えて、世の中で話題になっているプロジェクションマッピングやスマートフォンを使った参加型のイベントなどを、残像現象や想像力等の共通の視点で紹介した。その結果、映像への関心・意欲・態度を高めたり、身近な生活や社会の中の映像の存在を理解させたりすることに有効であった。生徒の感想からは、授業の活動と日常生活における芸術、世の中における芸術等に関連性を見出している様子を認めることができた。また、本授業では問いの工夫を行った。生徒の様子からは、教師の問いによって、よく考えながら制作に取り組む姿を認めることができた。

- ・ 「わくわく中学校アートギャラリー」では、中学校3年間で作成した作品を効果的に展示したり、中学校美術についての情報を提供したりしたことが、中学校で学ぶ美術に期待を膨らませるきっかけとなった。実態調査では「中学校で美術の授業を受けるのがとても楽しみ・楽しみ」と回答した児童が91%であった。
- ・ 「版画の世界 ～美術との出会い～」では、版画の仕組みや、作家作品、生徒作品等を、小中学校で扱う順序を踏まえた系統性を持たせたことが、生徒の版画への関心・意欲・態度を高めたり、身近な生活に活用されている版画を理解させたりするのに有効であった。

② 課題

- ・ 「映像表現との出会い『驚き盤』ーアニメーションの基礎」では、制作についてはねらい通りに授業を進めることができたが、鑑賞については十分に深まったとは言えなかった。日常生活における芸術、世の中における芸術等に関連性を見出すことがより一層深まるようにするために、教材研究と適切な時間設定が必要である。
- ・ 系統性を踏まえた展示は、日常生活における芸術、世の中における芸術等に関連性を見出すことは欠かせないが、児童生徒がより高い関心をもつようにするには、児童生徒が自分との関係性を見出すことができるようにすることが課題である。具体的には、児童生徒が、これまで学んできたこと、これから学んでいくことを明確にした展示にすることが必要である。

6 研究のまとめ

学校間の接続期における図画工作・美術の指導内容・指導方法の違いや、児童生徒の意識・考えの違いは、調査の結果、小中学校間、中高等学校間でそれぞれ在ることが認められた。その考察からは次のことが明らかになった。

- 指導内容・指導方法の違いは、学校種によって様々な違いが認められるが、図画工作・美術の基本方針は一貫しており、各学校種の児童生徒の発達の段階に応じて特色ある指導を行っている。それらを尊重する必要があること。
- 児童生徒の意識・考えの違いは、教師の指導内容・指導方法の影響に加えて、児童生徒の発達の段階、日常生活で芸術と出会う機会にも関係しており、実態の把握はできても、その原因までは分析が困難であること。

以上を踏まえると、指導内容・指導方法の違いや、児童生徒の意識・考えの違いは単純に解消すればいいとはいえない。本年度の取組みは、児童生徒が様々な違いを乗り越えることができるように、現存する違いを認めつつ、図画工作・美術の求めるべきものを明確にし、各学校種の特色を生かしながら一貫性や連続性を意識したものであった。その効果の検証については、実践した教師に確かな手応えがあり、児童生徒の様子や感想からも豊かな学習効果を推測できるものであったが、変容を数値としてとらえるまではできなかった。本年度の取組は、指導の工夫改善のための一例を提案したにすぎないが、今後の学校間の接続の問題を考えるうえでの何らかのヒントになれば幸いである。

第6学年2組 図画工作科 学習指導案

平成25年11月6日(水)

第5校時[13:40～14:25]

授業者 教諭 児玉 壮史

1 題材名 「あっと驚くアート体験！！～油絵って何だ！？～」

2 研究課題

発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いから、学校間の指導の違いや、児童生徒の意識の違いに、一貫性や連続性をもたらし、学校間の接続を円滑にする。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童の多くは図工が好きで、授業中は夢中になって取り組んでいる。自分の作品について楽しそうにおしゃべりをしながら製作したり、友だちの作品のいいところを取り入れたりするなど、自分なりの表現でのびのびと活動に取り組んでいる児童の姿が見られる。しかしその一方で、学習状況調査等の結果より、言語等の知識は高いが、それを生かすことが苦手な児童が多いという実態もある。図画工作科において、自分の思いを上手に伝えることができないことは、学習意欲の低下につながってしまう。そこで作品に対して素直な思いを言葉に表現できるように、「評価に使える言語」を掲示することで、普段からの話し合い活動で活用させてきた。また、作品完成後の鑑賞に限らず、製作過程に互いの作品について話す場面を設け、話し合う時間を多くとるようにもしてきた。

今回は、中学美術への円滑な接続になるように、小学校では扱わない油絵に触れることで、新たな感動を体験させ、アートに対してより主体的な考えを持たせていきたい。また、技法や年齢を問わず、作品をつくる思いには共通の表現する価値があることに気づかせていきたい。

(2) 題材について(小中高連携の意義)

今回の鑑賞活動では、高校生の油絵作品の活用や油絵の実演をする。その意義として、次のことが考えられる。

- 油絵という使用したことのない画材から、表現方法の幅を広げられるのではないか。
- 未体験の画材や技法ではあるが、作者の「自分の思いを伝えたい」という作品をつくる思いは誰でも同じということに気づかせることができるのではないか。
- 中学教諭が油絵を描く姿を生で見ること、中学美術への期待が膨らむとともに、中学への安心感が持てるのではないか。
- 高校生の作品に対して、素直に「上手だなあ」「自分もやってみたいなあ」という憧れをもって感動できるのではないか。

(3) 学習指導要領の位置づけ

B 鑑賞 (1) 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。

イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

4 目標及び評価規準

(1) 目標

油絵という未知なる技法に触れ、そのよさや美しさを感じ取るとともに、年齢や技法を問わず、作品をつくる思いには共通の表現する価値があることに気づく。

(2) 評価規準

- 作品のよさや美しさを自分の思いをもって味わおうとしている。(造形への関心・意欲・態度)
- 作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、形や色の特徴、材質感の違いなどを捉えている。(鑑賞の能力)

5 指導計画(1時間扱いなので省略)

6 本時の学習(1/1)

(1) 目標

- 作品のよさや美しさを自分の思いをもって味わうことができる。(造形への関心・意欲・態度)
- 作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、形や色の特徴、材質感の違いなどを捉えることができる。(鑑賞の能力)

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点 (〔共〕：共通事項に係る内容)	評価と手立て ◎：十分満足できる状況 ◆：判断児童への手立て
導入 10分	1 高校生の作品 (油絵)を鑑賞する。	○高校生の油絵作品を説明なしで鑑賞させることで、どのような画材でどうやって描いたのかを考えさせる。	
	提案：油絵を通して、アートを感じよう！		
	2 教師の提案を聞き、本時の活動の見通しを持つ。	○本時の流れを記載したワークシートを配布することで、活動の見通しを持ちやすくさせる。	

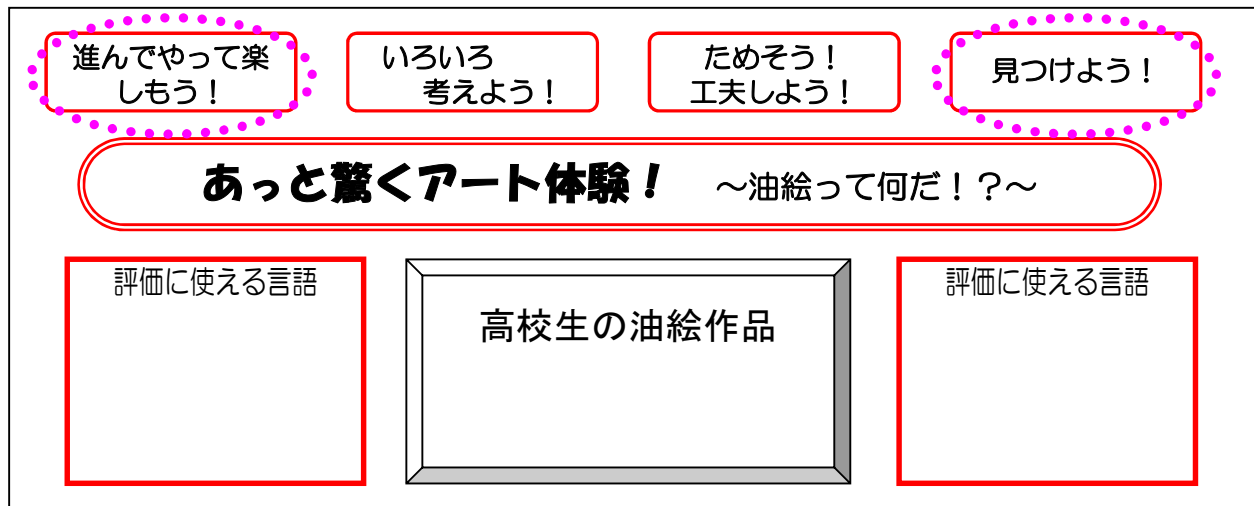
	学習活動	指導上の留意点 (〔共〕：共通事項に係る内容)		評価と手立て ◎：十分満足できる状況 ◆：判断児童への手立て
展開 ① 20分	3 水彩画と油絵を比較しながら鑑賞する。	○今までの児童の作品や写真と比較することで、油絵の特徴に気付かせる。〔共〕 ○実物に触れさせることで、画材や技法の違いを味わわせる。	○最初の学習活動を別々にし、5分ごとに活動を行き来させることで、活動が混み合わないようにする。	関 作品のよさや美しさを自分の思いをもって味わおうとしている。【行動観察・対話】 ◎ 作品のよさや美しさを見つけ、具体的に話している。 ◆ 対話を通して、材料の特徴、形や色の組合せの効果に気づくように助言する。 鑑 作品について語ったり、友だちと話し合ったりしながら、形や色の特徴、材質感の違いなどを捉えている。【対話・ワーク】 ◎ 画材や技法の特徴、形や色の組合せ方、表し方を関連的にとらえている。 ◆ 対話を通して、表現のよさを価値づけ・意味づけをするようにさせる。
	4 油絵の実演を鑑賞する。	○中学教諭(油絵画家)に実際に描いてもらうことで、油絵の表現の仕方を考えさせる。 ○作品のテーマを提示しておくことで、作者の思いが特に強く表現されているところに注目させる。	○BGMを流すことで、リラックスできる環境にするとともに、会話をする際の声の大きさの目安(曲が聞こえるくらいの声)とする。	
	5 油絵の画材を鑑賞する。	○自分たちが持っている水彩画の画材と比較させることで、油絵の画材でできそうなことを想像させる。〔共〕 ○実際に触れたりさせることで、画材の特徴に気付かせる。	○「評価に使える言語」を掲示することで、鑑賞時に使える言葉を充実させる。	
	6 油絵を体験する。	○大きなキャンバスを用意し、自由に描かせることで、油絵の特徴を肌で感じさせる。 ○1つのキャンバスに描かせることで、友だちの絵を生かしたりして、自分のイメージが膨らむようにする。〔共〕		
展開 ② 5分	7 グループで話し合い、代表が発表する。	○友だちと感じたことなどを語り合うことで、人によって違う感性のよさに気づかせる。		
まとめ 10分	8 最初の油絵作品を改めて鑑賞し、まとめる。	○高校教諭より作品(作者の思いなど)について説明してもらうことで、作品に対する作者の思いを味わわせる。 ○技法や年齢が違っても、「自分の思いを伝えたい」という作品をつくる思いは共通していることに気付かせることで、これからの制作に対する意欲を持たせる。		

7 その他

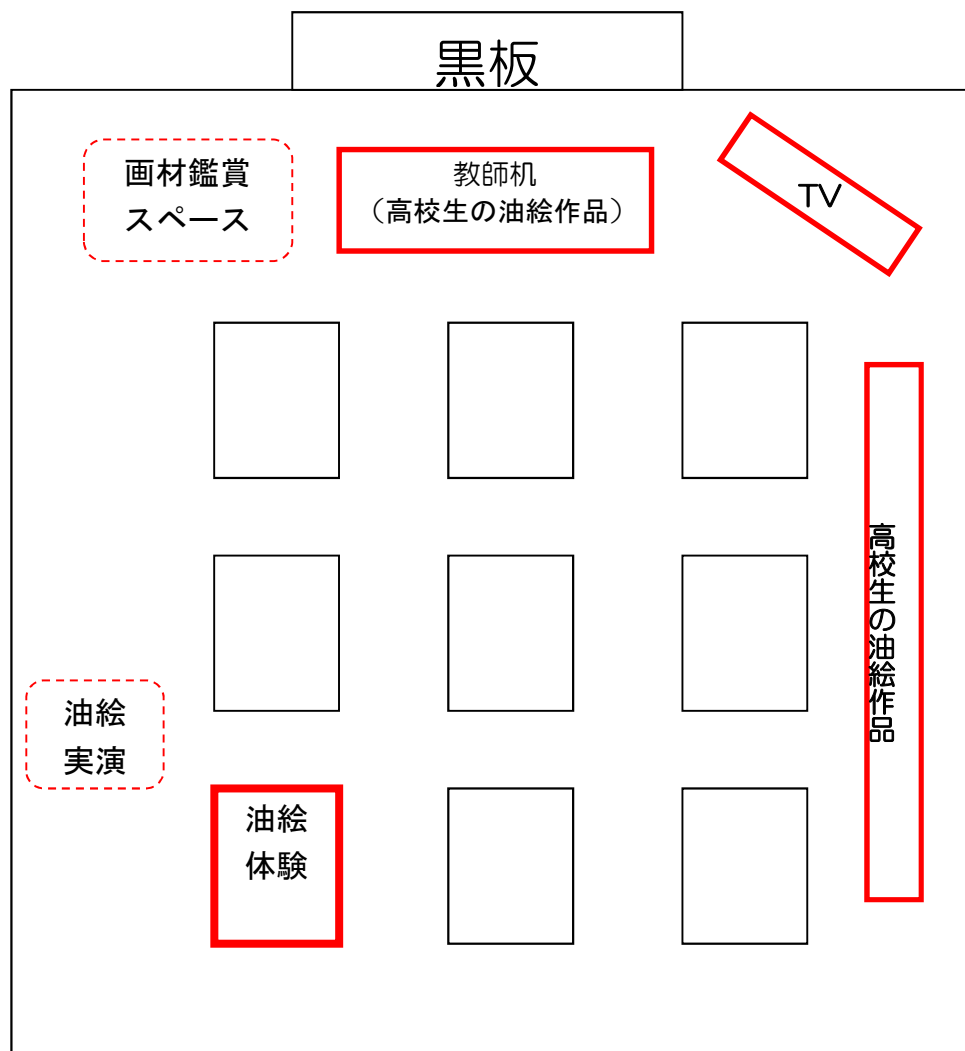
(1) 在籍児童数

男子16名 女子21名 計37名

(2) 板書計画



(3) 場の設定



(4) 準備

- ・ 高校生の油絵作品 7 点
 - 新座柳瀬高等学校美術部より授業前日に借用。
担当教諭及び美術部員3名が来校。
- ・ 油絵の画材セット
 - 新座柳瀬高等学校美術部より 1 週間前に郵送にて借用。
- ・ イーゼル ×6
 - 本校にはないため、近隣の学校より前日に借用。
- ・ キャンパス等
 - 100 円ショップにて購入。
児童の体験用に手頃なサイズ(F0・F1)で、2～3枚で 100 円。
- ・ 油絵作品の写真(TV でスライドショーで使用)
 - 新座柳瀬高等学校学園祭の美術部コーナーにて撮影。
当日の油絵作品はこの中から借用。
- ・ 水彩画作品
 - 児童の作品。1 学期の題材「窓の向こうに…」。

8 成果と課題

(1) 成果

- ・ 児童にとって、実物や実演を見せることはとても有効である。
- ・ 作品や画材を直接触れさせることで、「ここが違う!」「これはどうやって使うのか?」「こうすれば〇〇ができそう!」など、児童の思考を働かせることができた。
- ・ 目をキラキラ輝かせながら、主体的に学習に取り組んでいた。
- ・ ワークショップ形式にすることで、一人一人の活動する時間を確保できた。
- ・ 授業の流れをシンプルにし、ワークシートにも簡潔に提示したことで、教師が事細かな指示をしなくても、子供たちが自分で考えてスムーズに動くことができた。
- ・ 身近で魅力ある作品(高校生の油絵作品)や作品制作のプロセス(油絵の実演)の鑑賞、画材の体験など、児童が体験できる場を設定することで、子供たちに自然と主体的な学習に取り組ませることができた。

(2) 課題

- ・ 児童が感じた思いや感動が、ワークシートにまとめきれていなかった。言語能力にも関わるが、児童の思いや感動をどのように生かしてまとめていくかを工夫していく必要がある。
- ・ 小学生は技能より心の発達の方が早い。授業において、技法にこだわることをないように留意しなければならない。あくまで今回のねらいは『油絵のよさや美しさを感じ取るとともに、年齢や技法を問わず、作品を作る思いには共通の表現する価値があることに気付かせる』ことである。児童への言葉かけには、ねらいに沿ったものになるように工夫する必要である。

〔児童の鑑賞メモ(ワークシート)より〕

◎ 高校生の作品を鑑賞して

- ・ 色使いがすごくきれいで、特に梅の花びらに立体感があった。
- ・ いろいろな色で描かれていたり、水をあまり使わないで描いたというような濃い色もすごく良かった。
- ・ 鳥の足についているバンドは、よく観察しないと描けないところなのすごいい。
- ・ 毛並みや水などが本物のように見える。
- ・ 立体的に描かれていて、写真と間違えるほどだった。
- ・ 鮮やかな色使いで、光と影の使い方が素晴らしいなと感じた。
- ・ 同じ色でも濃い色と薄い色があってよかった。
- ・ とてもリアルで、絵を見ているのではなく、写真を見ているようだった。
- ・ 私もこんな風に絵を描けるようになりたい。
- ・ 動物の絵はとてもリアルで動きだしそうな感じだった。
- ・ 奥行きがあってすごい。
- ・ 色鮮やかに重ね合わせてできている感じ。まるで写真、いや、本物かと思うくらいリアルに表現されている。
- ・ よく見ると1色ではなく、何色も重ねて塗っているところがすごい。
- ・ 空の色が1色ではなく、薄い青から濃い青になっていて、すごくうまい。
- ・ 日光に反射して光っているのを見せている。
- ・ 鉛筆で描いてから絵を塗っている。
- ・ 風景が桜と馬にあう空の色を使っている。
- ・ 影をどうやって描いたのか不思議に思った。



◎ 油絵と水彩画を比べて

- 油絵は色がはっきりと出るけど、水彩画は淡い色が出ていた。
- 色の濃淡がはっきりしていた。
- 油絵はブラシが固かったので、色がつきやすいのかなと思った。
- 油絵は影がきれいにできている。
- パッと見たときに、油絵の方が存在感がある。
- 遠くの方をぼかしている。
- 油と水が違うだけでも全く違う絵に見えた。
- 触り心地が水彩画はサラサラしていて、油絵はザラザラしていた。
- 描く紙の種類が違う。
- 色にムラがなく、影があったりして立体感がある。
- 細かいところまでリアルに再現されている。
- 油絵は下書きできるのかな？
- 油絵はリアルだけど、水彩画は頭の中の自由な絵。
- 触り心地がしなやか。
- 水彩画は平面的だが、油絵はリアルで立体的。
- 水彩画は混ぜるとビチャビチャになるけど、油絵はならない。
- 水彩画は細かい部分は描けないけど明るく見える。
- 油絵は飛び出して見える。
- 油絵は色が落ちないのかな？
- 触った感触が全然違い、油と水だけでこんなに変わるんだと気づいた。
- 水彩画はすぐにしみ込まないからのびがいいけど、油絵はすぐにしみ込むから、指でこすったりするとグラデーションがきれいになりそう。
- 油絵は所々とがっていたり、ザラザラしたりしている。
- 水彩画は色が鮮やかだけど、油絵は色が強い。
- 水彩画は同じ色をいっぱい作れるけど、油絵はいっぱい作れない。それなのに同じ色で塗れているので不思議。
- 水彩画は色がはっきりしていない。



◎ 油絵を描いているところを見て

- ・ たまに油が固まっているところがあるけど、それが立体感となっていていい。
- ・ 指を使って馴染ませているのが上手い。
- ・ 自分なりの工夫を加えていて、色が写真とは少し違うけど、それもキレイ。
- ・ 最初は大まかに塗っていて、後から丁寧になっている。
- ・ 何か専用の筆があり、それをうまく使っていた。
- ・ 色を上から乗せて、立体感が出ている。
- ・ 筆を縦にして枝を描いている。
- ・ 1つの絵を仕上げるのに1週間～1カ月ぐらいかかる。
- ・ わざと立体的にするために、絵の具をたっぷりつけて立体にしている。
- ・ 絵の具をたくさんつけて塗ると存在感が出る。
- ・ 油絵は気持ちを描ける場所だなと感じた。
- ・ 筆を回して描いている。
- ・ 筆だけではなく、いろいろな道具を使って描いていた。
- ・ 手でのばしたり、こすりぬりをしたりして工夫していた。
- ・ 色があまり混ざっていない時に使ったりしている。
- ・ 遠近法を使って、前の方は濃く、後ろの方は薄く見えた。
- ・ 最初はあまり細かく描いていなかった。
- ・ 表面をボコボコにしている。
- ・ 奥行きがある。
- ・ 木専用の筆や葉専用の筆がある。
- ・ 油を足したりして、調節して描いていた。
- ・ いろいろな色を出して豪快にやっていた。
- ・ 木の色に青を使っていた。
- ・ 「塗る」ではなくて「こする」イメージ。
- ・ 1日乾かさないと、重ねて絵が描けない。
- ・ メインで見せたいものを大きく描いていた。
- ・ 葉を描くときは、たたいて描いていた。
- ・ 色を混ぜるときに、どの色を混ぜるとどの色ができるかなどが全てわかっていてすごいと思った。
- ・ 小学校より道具の使い方が細かった。
- ・ 最初は大胆にバターナイフみたいなやつで塗って、そこから筆を使い分けて油たっぷりのやつで描いたり、パサパサので描いたりしていた。
- ・ まだ乾いていないところが少し濃く感じて、乾いたところが薄い感じで立体感が見えた。
- ・ わざとたっぷり塗って、表面をぼこぼこにしている。
- ・ 筆の形を上手に利用していた。
- ・ 木の枝に赤なども混ぜていた。
- ・ 下の色が見えるように、上から薄く塗る。
- ・ 雑に描いているように見えるのに上手い。
- ・ 絵の具を多くつけると存在感が出る。



◎ 油絵の道具を見て

- ・ 油にもいろいろな種類がある。
- ・ 色が少し違う。
- ・ 筆が固い。
- ・ パレットが重い。
- ・ 油を入れる専用のものがある。
- ・ 紙がしっかりしていて、釘が刺さっている。
- ・ 油で溶いて使うのがびっくりした。
- ・ ヘラ（ペインティングナイフ）をどのようにして使うのかが疑問。
- ・ 筆を洗うのも油を使っていることがわかった。
- ・ 油のにおいがすごかった。
- ・ パレットは折りたためる。
- ・ 布が丈夫。
- ・ パレットに区切りがない。
- ・ パレットが木でできていた。
- ・ 筆が長い。
- ・ 布は触ってみると弾力があった。
- ・ 木の道具が多い。
- ・ 布はザラザラしていて張りがある。
- ・ 塗る油と洗う油がある。
- ・ パレットが平らだった。
- ・ 絵の具の白が大きい。



◎ 油絵を描いて

- 油絵は紙がざらざらしていて、色がはっきりとわかる。
- 筆が水彩画と違う。
- 白色が水彩画と違ってはっきり見えた。
- 影はいろいろな色を混ぜたら影らしくなると思う。
- 感触は描いていると少しザラザラしている。
- 触り心地が何か引かかる感じで不思議。
- また描いてみたいと思う絵の具の感触だなと思った。
- 筆が固いのにな絵の具が染みている。
- 水彩画より立体的に描ける。
- 思ったよりも描くのが難しく、うまく描けない。でも描くのは楽しい。
- 絵の具がベトベトしていた。
- ドロツとしていない。
- 同じところを何回描いても色が混ざらないで重なる。
- 水の代わりに油を使うことに驚いた。
- 自分の筆とはちょっと違い、平らな感じだった。
- カサカサ感があった。
- 油をつけないと絵の具がのびない。
- 描くと楽しさが溢れる！
- ネットリしている。
- 色が混ざらない。→色が重なる。
- にじまないから、すぐに重ねて描くことができる。
- 紙がざらざらしていて、絵の具の吸収が速かった。
- 色が重ねられるから、いろいろな絵が描けそうだった。
- 細かく絵を描ける。
- 色を変えられるのがすごく楽しい。
- 色が長持ちしないで、ずっと描いていると色が変わってくる。



◎ 絵を描いた作者の思いを聞いて

- ・ 絵を描いた人は、いろいろな思いを感じ取って、それを絵としてあらわしているのがわかった。これから作品を作る時は、心を表して描きたいと思う。
- ・ 「馬の寂しさを描いた」と聞いて、一見、春の温かそうな絵に見えていたけど、そういう気持ちまで伝わってきて感動した。馬の表情も寂しそうな眼をしていて、作者が思いを込めた大切な作品なんだなと実感した。
- ・ 絵は描くだけではなくて、いろいろな思いが込められていることがわかった。
- ・ 作者の想いが確かに表現されていてすごいと思った。
- ・ 馬を1頭と桜の木を2本で、ここだけの世界だと感じた。
- ・ 馬が寂しそうなのをすごく表現できていてすごい。風景もあっているなとすごく感じた。
- ・ 馬が寂しそうにしていると聞いて、「言われてみればそのように見える」と思った。
- ・ 絵の一つ一つにたくさんの思いが詰まっていたことがわかった。
- ・ 寂しい馬って感じが絵にでている。桜が咲いている数とかも、その絵にあっているとと思った。
- ・ 木と馬1つずつで、これだけ寂しい感じが描けるんだと思った。
- ・ 1枚の絵にすごくこだわりがあり、すごく絵が好きなんだなと思った。
- ・ 馬1頭だけでは寂しすぎるので、横の木を入れていた。周りが青空だから、とてもきれいに感じる。
- ・ 木や馬が1つだけ描かれているので、なんとなくそんな感じがした。
- ・ 寂しい感じを馬だけではなく、木でも表現したのはすごいと思った。
- ・ 確かに馬が1頭しかいなくて、木も1～2本だけしか並んでいなくて寂しい感じだけど、木と馬が励ましあっているように見えた。
- ・ 寂しそうだったら、風景も静かな感じにするのは思いつかなかった。
- ・ 馬の寂しさを描いていた。木も満開ではないのは、そういうことを描きたかったんだなとわかった。
- ・ 実際の物をそのままではなく、選んで描くのはいいと思った。
- ・ 最初は誰かを待っているように見えただけ、本当は寂しそうにしていたと聞いて少し驚いた。



油絵を通して，アートを感じよう！

作品名

〇〇が上手！

〇〇なところを真似したい！

〇〇がすごい！

どんな思いで描いたのかな？

どうやって描いたのかな？



【高校生の作品を鑑賞して】

【絵を描いた作者の思いを聞いて】

〔油絵と水彩画を比べてみよう！〕

〔油絵を描いているところを観てみよう！〕

触り心地

色の使い方

〇〇がさすがだな

道具の使い方

色の作り方

どんな思いで描いているか

〔油絵を描いてみよう！〕

〔油絵の道具を観てみよう！〕

初めての感

描く感触

こう使えば〇〇が描けそう！！

どう使

何に使

私の絵の具と〇〇が違

第2学年2組 美術科学習指導案

平成25年10月18日(金)

第5校時 [13:40～14:30]

授業者 教諭 高橋 圭輔

1 題材名 「感じ取ろう、作品に潜む物語」 ～高校生の作品を鑑賞して～

2 研究課題

発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いから、学校間の指導の違いや、児童生徒の意識の違いに、一貫性や連続性をもたらし、学校間の接続を円滑にする

3 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は明るく活発で、授業の中でもけじめをつけて行動できる生徒が多い。美術という教科に対して興味を持っている生徒が多く、より良い作品をつくろうと一生懸命に制作している生徒が多い。先日終了した1学期からの課題である「BOX-ART」では色や素材などについて話合う場面なども見られ、お互いの作品に興味をもって制作をしていた。今回の鑑賞の授業はいつもと視点が違い、少人数グループでの鑑賞となるのでどのような反応を示すか興味深いところである。

(2) 題材について(中高連携の意義)

今回の鑑賞活動では高校生の作品を活用する。以下にその意義となる事柄を述べる。

- 高校生の作品や取り組みから思いを表現する活動に深まりを感じ、表現方法の幅を広げられるのではないかな。
- 高校生の作品に対し、素直に「上手だなあ」「自分もやってみたい」と憧れをもって感動できるのではないかな。
- 高校生の作品や取り組みに接し思いを感じ取る鑑賞活動を通じて、これから進学する高校への期待をふくらませ安心感をもてるのではないかな。
- 中学校2年生の発達段階として、知識や既成概念を優先させる制作に力を入れてしまいがち、深めた思いを表現する技術や造形的な面白さを追求した作品に触れることで、生徒達の感性が刺激され表現の幅がより広がるのではないかな。

(3) 学習指導要領上の位置づけ

B 鑑賞(1)・・・美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

- ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美術意識を高め幅広く味わうこと。

〔共通事項〕

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標 作品に対する作者の思いを感じ取り、作品のよさを味わい言葉で伝えあう。

(2) 評価規準

- 他者の作品に興味をもち、鑑賞活動に意欲的に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度 問)
- 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって幅広く味わう。(鑑賞の能力 鑑)
- 感じ取ったことを言葉で伝えあうことで作品への理解を深める。(鑑賞の能力 鑑)

5 指導計画(1時間扱いなので省略)

6 本時の学習（1/1）

（1）目標

- 作品の内面に迫り、自分なりの解釈から深く味わうことができる。（関、鑑）
- 他者の作品のよさや工夫を感じ取り、具体的な言葉でワークシートに書く。（関、鑑）
- 作品に対する作者の思いを感じ取り、作品のよさを味わい言葉で伝えあう。（関、鑑）

（2）展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点 （〔共〕：共通事項に係る内容）	評価と手立て ◎：十分満足できる状況 ◆：C判断児童への手立て
導入 10分	1,教師の提案を聞き、本時の活動の見通しを持つ。 2,高校の先生から作品の説明を聞く。 3,作品の解釈を教員が述べ、生徒は作品を見ながら聞く。	○ワークシートを配布し、今日の流れを説明する。 ○作品にも注目させ、作品のテーマや技法についての話を聞く。 ○生徒自身も物語を考えることを前提に聞くように指導する。	関 話をしっかり聞き本時の流れを把握しようとしている。 【観察・表情】
展開 ① 20分	4、作品鑑賞 ◇ワークシート記入 ①作品から客観的事実を読み取る。 ②客観的事実からどんなことがわかるかを記入する。 ③自分なりの解釈を行い、作品から物語を考えてみる。 ※班の代表が班員の内容をまとめる。	○導入の時点で述べた教員の解釈を参考に読み取らせる。 ○班や作品ごとにきかけとなる言葉を投げかける。 ○作者の制作意図が感じ取れるように作品をじっくり鑑賞し、注目点や題名などにも注目させ記入できるように指導する。	関 作品を鑑賞し、それぞれの項目に対して具体的な言葉で書くことができる。 【観察・シート】 ◎形や色、空間、構成、心情などについて作品の注目点を具体的に書いている。 ◆形や色、空間、構成、心情などについて具体的な言葉を教師の助言や周りの生徒の発言などによって知り、記入できるようにする。 鑑 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって幅広く味わい、具体的な言葉で書くことができる。 【観察・シート】
展開 ② 10分	5、グループごとに代表が発表する（ワークシートの内容を述べる。プロジェクターで作品を拡大する。）	○発表者にははっきりした口調で発表できるように指導する。 ○鑑賞の視点は人によって違いがあることに気づかせるような指導をする。	関 他者の鑑賞の視点を感じ、良さや作品の内面についてワークシートに記入できる。 【観察・シート】 関 各発表者は鑑賞者にしっかり伝わるように発表をすることができる。鑑賞者は作品と発表者の言葉を合わせて感じ取り、作品理解を深めることができる。 【観察・発表】
まとめ 10分	6、ワークシートに本日のまとめを記入する。	○ワークシートを用いて、本時のまとめを記入させる。 ○教師からの話「鑑賞の視点について」	関 ワークシートに具体的な言葉で感想を記入し、本時のまとめをすることができる。 【観察・シート】

作品協力 > 埼玉県立新座柳瀬高校 埼玉県立日高高校

7 成果と課題

<成果>

○ 高校生の作品や取り組みから思いを表現する活動に深まりを感じ、表現方法の幅を広げられるのではない
か。

高校生の作品から感じ取るものは多かったようだ。班ごとの鑑賞活動から個々のつぶやきが多く聞かれ、そして議論まで行っていた班があった。技法的な部分や作品のテーマについて意見を交わす場面がみられた。今後の活動ではあるが、表現の幅は広がっていくのではないかとと思われる。

○ 高校生の作品に対し、素直に「上手だなあ」「自分もやってみたい」と憧れをもって感動できるのではない
か。

高校生の作品には一作品としての強さや重みがあった。そこに心を奪われていた生徒は多かったのではない。瞬時に感動するというより、後からじわじわと作品の良さや面白さ、テーマなどに気づき、感動が湧いて きているのではないと思う。すぐに作品の本質に迫れるような作品は少なかったのだと思う。

○ 高校生の作品や取り組みに接し思いを感じ取る鑑賞活動を通じて、これから進学する高校への期待をふくらませ安心感をもてるのではないか。

導入時の高校の先生からの説明に興味を持って聞いている生徒は多かった。高校になると美術は選択制になることや、扱っている題材などについての話など、生徒にとっては自分たちの将来に関わる内容なので真剣に 聞いていた。

○ 中学校2年生の発達段階として、知識や既成概念を優先させる制作に力を入れてしまいがち、深めた思いを表現する技術や造形的な面白さを追求した作品に触れることで、生徒達の感性が刺激され表現の幅がより広がるのではないか。

作品からその場面の物語を考えるという取り組みでは、作品の中に潜む細かな情報から想像を膨らまし、物語を推測していく。その取り組みの中から見たことのない技術や造形的な面白さを感じることができていた。物語を考える過程で作者の想いや意図にまで興味を持ち始めた生徒もいた。自分で解釈を生み出すという主体的な取り組みは積極的に行わなければならないと感じた。

<課題>

言語能力のなさが鑑賞を簡素なものにしてしまっている傾向がある。想像は得意だがその内容を相手に上手く伝えることができない。書くことも苦手としている。語彙力のなさ、文章を組み立てる力の欠如。つぶやきをつぶやきのまま終わらせている。面白いつぶやきをしている生徒は多い。そのつぶやきをまとめて相手に伝える術を学ぶ必要がある。（国語科との連携）

今回のような授業を定期的に行うのは難しいが、近隣の高校から作品を借りて日常的に鑑賞できる場を設けることはできる。高校生の作品に限らず世の中のアート作品を中学校や小学校に展示し、鑑賞する機会を増やしていくことはできる。さらに今回の鑑賞活動での連携では、作品が限定的なものになってしまった。油絵の大作（部活で制作したものなど）や映像、漫画、インスタレーションなど幅広いジャンルの作品が鑑賞できれば社会のアートとの連携もできるのではないかと考える。その先の連携を見据えておくことも必要なことである。

<生徒の感想>

（質問：高校生の作品からどんなことを感じ、学びましたか？）

- ・ 作品にはいろいろな思いや感情が込められていると思った。
- ・ （自分の制作）もっと自由にやってもいいんだと思いました。
- ・ 表現力が豊かですごい。
- ・ 意味深い作品が多く面白かった。これからは作品に込められた物語の意図を感じ取っていきたいと思いました。
- ・ 絵の意味がわからなかったが、そこから自分の考えが思いつく。
- ・ 作品でその人の個性がわかったりする。高校生の作品に見えないものもあった。
- ・ 高校生の作品は色々なものが詰まっていて、制作した人の気持ちがわかるような気がしました。この絵にはどのような意味が込められているのかを想像を膨らまして考えるのが楽しかったです。
- ・ 見ている人に、これはなんだろうと想像させる不思議な作品があった。
- ・ 高校生の作品は、中学生では思い浮かばないような想像が出ていた。

- ・ 高校生の作品には単純に見ただけではわからない深い意味があるのだと思った。

(質問：美術にはどんな意味（価値）があると思いますか)

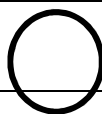
- ・ この世のすばらしいものや景色を作品にして伝えてくれる。
- ・ 想像力を高めてくれるもの。
- ・ 人のものとのとらえ方の違いを知れる高い価値のもの。
- ・ 自分の好きな雰囲気や描いたりできる。
- ・ 個性がすごく出る。
- ・ 自ら感情を描く。
- ・ 人に感動を与えられるもの。
- ・ 上手にできた時の嬉しさを味わうことができる。
- ・ 他の教科にはない、自分を表現するということがあっていいと思う。
- ・ 発想力や想像力を豊かにできるもの。
- ・ 個性や感情を作品にして伝える。
- ・ 人の心に何かを残すもの。
- ・ 数学などにはない自由さがある。

(質問：美術について思うことを自由に書いて下さい)

- ・ 一つのものに多くの意味がある。
- ・ 自由に表現するのが楽しい。
- ・ こんな発想もあるんだ、と様々なことが勉強になる。
- ・ 技術面以外でも高い評価をされることがある。
- ・ 誰でも得意になれる。
- ・ アイデアが浮かぶまで資料などを見ている時間が好き。
- ・ 人の作品を鑑賞するのが楽しい。
- ・ 現実にはないものを描けるのがよい。
- ・ デッサンが面白そう。
- ・ 自分がどんな気持ちなのかを読み取ることができる。
- ・ 自分のペースに合っているので授業に取り組みやすい。
- ・ 美術は便利。海外の人とコミュニケーションをとる時、共通の言語を使えない場合、絵を使えば簡単な話ができる。
- ・ 人の心を豊かにしてくれる。心を癒してくれる。精神面でも役に立つことがある。必要な教科だ。
- ・ すべての授業の中で唯一、自分だけの作品をつくることができる。
- ・ 驚きがあって楽しくなる。
- ・ 頭の中では作品ができていのに、いざやってみると上手くできない。でも楽しい。
- ・ 悩めば悩むほど良い作品ができる。

圖畫工作・美術資料 -18-

⑤ 発表を聞いて（感覚を研ぎ澄まして聞こう！）興味を持った作品について書いてみよう



班 の タイトル or 題材名 「

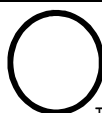
」 という作品について

A 発表者が話していた物語の大まかな内容

B それについての感想

あんな作品もあったのか…。僕だったらこんな物語を考えるかな…。

時間がある人はもう一つ！



班 の タイトル or 題材名 「

」 という作品について

A 発表者が話していた物語の大まかな内容

B それについての感想



高校生の先輩方の作品からどんなことを感じ学びましたか？技術的なもの意外で感じ取ったことを書いて見ましょう！

2 年 組 番 氏名

NO ART
NO LIFE !!

第2学年4組 美術科 学習指導案

平成25年11月15日（金）

第1校時 [8:40～8:30]

指導者 教諭 甘楽 紘子

1 題材名 「感じ取ろう、作品に潜む物語り」～高校生の作品を鑑賞して～

2 研究課題

発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いから、学校間の指導の違いや、児童生徒の意識の違いに一貫性や連続性をもたらし、学校間の接続を円滑にする。

3 題材について

（1）生徒の実態

本学級の生徒は、穏やかで授業にも集中して取り組むことができる。美術に対する意識も高く、作品作りにおいて自分の表現したいものを作るため工夫を重ねる姿を見ることができる。鑑賞に関しては1学年でクロード・モネ「散歩一日傘をさす女」や自分たちの作品の発表会を経験している。また、学期に1回の定期テストで鑑賞の問題に取り組んでいるため、作品を鑑賞して、想像をふくらませる力は、ある程度育っていると考える。今回は、自分と年も近く上級学校生である高校生の作品、グループで話し合いを通しての活動という今までとは少し違ったプロセスになるので、作品からの気づきやお互いの意見への共感など多角的に生徒の様子を見たい。

また、今回作品をお借りした進修館高校は本中学校に隣接しており、兄弟を始め多くの卒業生が通っている。進修館高校は総合学科を有し、県北で唯一、美術を専門的に学べる学校である。そのため、生徒作品はとても質が高く、中学生の想像力を広げてくれると考える。

（2）題材について（中高連携の意義）

今回の鑑賞活動では高校生の作品を活用する。以下にその意義となる事柄を述べる。

- 高校生の作品や取組から思いを表現する活動に深まりを感じ、表現方法の幅を広げられるのではないかな。
- 高校生の作品に対し、素直に「上手だなあ」「自分もやってみたい」と憧れをもって感動できるのではないかな。
- 高校生の作品や取組みに接し思いを感じ取る鑑賞活動を通じて、これから進学する高校への期待をふくらませ安心感をもてるのではないかな。
- 中学校2年生の発達段階として、知識や既成概念を優先させる制作に力を入れてしまいがち、深めた思いを表現する技術や造形的な面白さを追求した作品に触れることで、生徒達の感性が刺激され表現の幅がより広がるのではないかな。

(3) 学習指導要領上の位置づけ

B鑑賞(1)美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美術意識を高め幅広く味わうこと。

[共通事項]

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

4 目標及び評価規準

(1) 目標 作品に対する作者の思いを感じ取り、作品のよさを味わい言葉で伝えあう。

(2) 評価規準

- 他者の作品に興味をもち、鑑賞活動に意欲的に取り組もうとする。(関)
- 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって幅広く味わう。(鑑)
- 感じ取ったことを言葉で伝えあうことで作品への理解を深める。(鑑)

5 指導計画(1時間扱いなので省略)

6 本時の学習(目標及び評価規準は4で示した通り)

過程 時間	学習活動	指導上の留意点 ([共]: 共通事項にかかる内容)	評価と手立て ◎: 十分満足できる状況 ◆: C判断生徒への手立て
導入 10分	1,教師の提案を聞き、本時の活動の見通しを持つ。 2,作品の解釈を教員が述べ、生徒は作品を見ながら聞く。	○本時の流れを説明する。 ○生徒自身も物語を考えることを前提に聞くように指導する。	
展開 ① 20分	3,作品鑑賞 ◇ふせん紙記入 ①作品から客観的事実を読み取る。(赤色のふせん紙) ②客観的な事実から、自分なりの解釈を行う。(黄色のふせん紙) ③他の班員の考えを共有しながら物語を考える。	○導入の時点で述べた教員の解釈を参考に読み取らせる。 ○班や作品ごとにきっかけとなる言葉を投げかける。 ○班員の意見を取り上げ、ほめ、話し合いを活発化させる。 ○作者の制作意図が感じ取れるように作品をじっくり鑑賞し、注目点などにも注目させ記入できるように指導する。	関 作品を鑑賞し、それぞれの項目に対して具体的な言葉で書くことができる。【観察ワークシート】 ◎形や色、空間、構成、心情などについて作品の注目点具体的に書いている。 ◆形や色、空間、構成、心情などについて具体的な言葉を教師の助言や周りの生徒の発言などによって知り、記入できるようにする。 鑑 作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自

			分の価値意識をもって幅広く味わい、具体的な言葉で書くことができる。【観察・ワークシート】 ◎作者の意図にも目を向けさせたり、ストーリー構成や発表に工夫できたりすることはないか考えさせる。 ◆話し合いのきっかけになるような意見や気づきを取り上げてほめ、作品について考えさせる。
展開 ② 10分	5,グループごとに代表が発表する（ワークシートの内容を述べる。作品はイーゼルに架ける。）	○あらかじめ高校の先生に聞いていた高校での美術に関する考え方や姿勢について話す。 ○発表者にはっきりした口調で発表できるように指導する。 ○鑑賞の視点は人によって違いがあることに気づかせるような工夫をする。	関 各発表者は鑑賞者になりつつあり伝わるように発表をすることができる。【観察・発表】 関 他者の鑑賞の視点を感じ、よさや作品の内面を感じ取りながら聞くことができる。 【観察・ワークシート】 ◆発表者、鑑賞者それぞれの立場を考えて協力するよう声かけを行う。
まとめ 10分	6,ワークシートに本日のまとめを記入する。	○ワークシートを用いて、本時のまとめを記入させる。 ○教師からの話「鑑賞の視点について」	関 ワークシートに鑑賞を通して考えたことや感想などを記入し、本時のまとめをすることができる。【観察・ワークシート】

作品協力 埼玉県立進修館高校

7 備考

高校との連携の具体的な手順

本校校長を通して、進修館高校へ依頼

↓

進修館高校を訪問し、美術担当教員と顔合わせ

改めて作品借り入れの依頼、打合せ

↓

作品の借り入れ、指導案提出

↓

授業実施（1か月ほど美術室内に作品展示）

↓

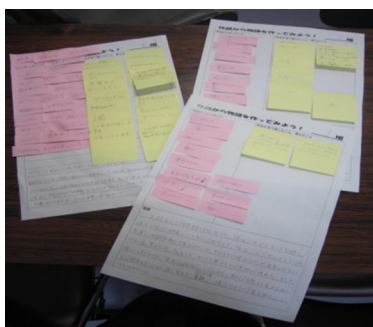
作品返却（生徒の意見をまとめたものなどを添えて）

8 生徒の感想

- ・ 今回の授業はとても自分のためになった授業でした。一つ一つの絵にそれぞれの物語があるんだと改めて感じました。特に、私が見た、ヘビと人、ドロップの絵は、ドロップの部分の色彩が一色だけでなく、とても豊かですてきだなあと思いました。Oくんが紹介していた、海の絵も夜の静けさが身にしみわたりました。高校生で私たちと同世代なのにすばらしい心で絵としっかり向きあって描いていてすてきでした。
- ・ 最初に思ったのは、すごいなと思った。このような絵はなかなか見ないので見たときは画家が描いたのかと思い、高校生が書いたときいてとてもびっくりしました。自分は絵が苦手なので、こんなふうには書けたらいいなと思いました。絵でこんなに伝えられるんだなと分りました。
- ・ 高校生の作品を見て、中学生とは違い、上手いなあと思いました。ユーモアや色使い、創造性が違いました。ユーモアは、適当に書いているっぽくても何かつながりができている。色使いがあざやかでオーラを感じ取れるような気がしました。
- ・ 中学生とは違い、細かいところまで丁寧に書かれていました。立体的に書かれていて3Dに見えたところもありました。影などもついていて、絵のように見えませんでした。高校生のいい作品が見られてよかったです。
- ・ ものすごく立体的でそして神秘的、さらに何か奥深いものがあつた。ものによっては楽しいもの、さびしそうなものもあつたけれど、どれをとっても自分の創造力をふくらませることのできるものすごくすばらしい作品だった。いつか自分もこの作品に劣らない作品を描いてみたいと思った。
- ・ 僕たちが鑑賞した作品は何を書いた絵なのか分からず、気づいた事はあってもそれを文にまとめるとなると少し難しかったです。だからこそ不思議な絵になり、じっくり見てしまいました。僕は暗い絵をあまり書かないのでこのような絵も書いてみたいと思いました。絵から物語を想像するのもおもしろかったです。
- ・ 高校生の作品は、描いた人の気持ちが絵に表れていて、心がこもっているなと思いました。色使いや筆使い、影などつけるテクニックがやはり私たちと違うなと思いました。その絵から想像して物語を作るのもとてもおもしろかったです。作品を描くのもよいけれど、見て鑑賞することも好きになりました。物語がそこから連想して作れるような絵を自分も描いてみたいなと思いました。大事なものはどのような立場や目線で描くかだと思います。
- ・ 今まで鑑賞するときは写真などで、本物をまじかで見て鑑賞するのは今日が初めてだったので、写真では気づかないことがいろいろ書けました。あとその気づいたことから物語にするのも初めてだったので、とても楽しかったです。高校生の作品とは思えないくらい、上手くてすごいと思いました。自分とあまり年が変わらない人が書いたとは思えませんでした。今日は初めてなことが、いっぱいあったので、とても楽しかったです。
- ・ やっぱり高校生は絵が上手いなと感じました。建物の汚れやかげとかもせんさいに描かれていて、私もまねして描いてみたいと思いました。1枚1枚その人の思いが込められていて1班選んだ校舎裏のような所は描いた人がその場所が自分の中に残っているから描いたのだと思いました。私はあまり絵を描くのが得意ではないので高校生の上手いところをまねして上手に描くことができればいいです。
- ・ 今まででは作品を見た感想を言って終わりだったけれど、見て想像して自分たちでその絵のストーリーを考えるのは初めてだったので、おもしろかったです。自分で思いの外いいストーリーが思いついたのでおもしろかったです。次は一枚の絵だけでなく、もっと時間をとって何枚もやりたい

です。今日のストーリーももっと時間があれば上手く書けました。自分でストーリーを考えるのもおもしろいと思いました。

- ・ 高校生の作品はとても自分たちや想像を工夫して表現していて、それぞれ個性があつてきれいだった。近くで見ると、色もこまかく工夫されていてびっくりしました。先生の話によると高校の先生は写真などを持ってこさせて、より本物らしく見せて説得させるようなものを描かせるというように1つ1つを丁寧に工夫していてすごいと思いました。



9 成果と課題

- ・ 高校生の作品に生徒が惹きつけられ、自然と鑑賞を深めることができた。生徒は、美術室には行ってすぐに展示されている作品に魅入り、「これだれが描いたの？」など興味をもつことができた。
- ・ 生徒が素直に作品鑑賞を深められたのは、進修館高校から借りた作品のレベルの高さによるものが大きかったと感じる。ただし、抽象的で考えづらい作品では、物語までまとめられない班もあった。(生徒と作品のマッチングもある)
- ・ 付せん紙を使って意見を出すことで、思いついたことを書きやすく、また、班員の意見を一度に見ることができた。
- ・ 今回の鑑賞では、今までの鑑賞よりも絵を深く見ることができたという意見が多く見られた。具体的な理由としては、①班で見ることによってお互いの意見を聞き、いろいろな見方を共有できた。②物語を作るため、細部までよく見られた。③高校生の作品が上手で想像力や個性があり楽しく見られた。などが多く感想に書かれていた。
- ・ 本校では、進修館との距離が近く、連携を模索している状態であり急なお願いにも対応してもらえた。地域の高校とのこのような連携は、十分可能であると考えてるが、準備期間は1ヶ月程度必要と考える。
- ・ 生徒は教科書や図版の鑑賞から、本物の作品が見られたことで技法や作者が考えて作品を制作しているということにも自然と目を向けることができたと感じている。

芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

平成25年11月25日（月）

第5、6校時 [13:40～15:30]

授業者 教諭 武藤 隼人

1 題材名 『映像表現との出会い 「驚き盤」—アニメーションの基礎—』

2 題材について

いわゆる「驚き盤」を「フェナキストスコープ」としなかったのは、今回、円盤のスリットから個人で鑑賞する形をとらず、ストロボ光を用いて多人数で動画を楽しませたかったからである。

本校では2年次にフェナキストスコープ制作を実施してきた。多くの生徒は初めての経験であり、コマ撮りした参考作品を動画として見せると驚きの声上がるが、実際の制作となるとアイデアを出すことや描くことに苦手意識を見せる生徒が少なからずおり、今回は時間数の関係から思い切って既存キャラクターの一部分を動かすことを考えさせた。また、これまでは題材そのものの表現と鑑賞に終始してきたが、今回は映像と生徒の生活や社会との関連性についても取り上げる。なお、事前に生徒へとった「映像に関するアンケート」の結果によると「中学校の美術で『映像』について学んだことはありますか」の問いに、73名の回答中5名しか「はい」と答えなかった。高校1年次より映像メディア表現に積極的に出会わせることで、アニメーションの仕組みや映像表現の特性について考えさせ、「プロジェクション・マッピング」等の現代の映像表現についても鑑賞し、身近な生活や社会などとの関連性についても理解を深めさせたい。

本校は明るく素直な生徒が多い一方、年次内で生活環境、学習意欲、能力などに大きな違いがあり、全体的に集中力や自己肯定感に欠ける。映像表現との新たな出会いと作品づくりを通して、生徒に表現の喜びと自信を持たせ、美術への思いをより良いものとしたい。

3 題材の目標

- アニメーションの基礎である「驚き盤」を通して自分の描いた絵が動き出す映像を目の当たりし、その仕組みや特性を考えたり、高校美術の良さや楽しさ、驚きを主体的に味わったりする。
- 「ゆるキャラを動かそう」という身近なテーマを踏まえ、6コマのシンプルな枠の中に映像メディア表現の特性を生かした主題、構想を練り、表現する。
- 他の生徒の作品から映像表現の特質や表現の効果などを感じ取る。また、現代の映像表現を学び、生活や社会の中にある美術の役割や良さ、楽しさについて理解する。

4 準備するもの

教師 ワークシート2種類、はさみ、定規、マスキングテープ、コンパス、色鉛筆、油性ペン、トレーシングペーパー、プロジェクター、パソコン

生徒 筆記用具、鉛筆（2B）

5 対応する学習指導要領の指導事項

A表現（3）映像メディア表現

- ア 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。
- イ 色光、視点、動きなどの映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練ること。
- ウ 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。
- エ 表現方法や編集を工夫して表現すること。

B鑑賞

- ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めること。
- イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、理解すること。
- ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深めること。

6 題材の評価規準及び学習活動に即した評価規準

(1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 テーマを踏まえ美術の創造活動の喜びを味わい、映像メディア表現の多様な表現に関心をもち、主体的に主題を生成して構想を練ったり、表現方法や編集を工夫して表現したりしようとしている。 鑑賞 美術の多様な表現や他の生徒の作品などに関心をもち、主体的に良さや美しさを感じ取り、生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術文化などについて理解を深めようとしている。	テーマを踏まえ感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成し、映像表現の視覚的要素を工夫して表現の構想を練っている。	意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かし、表現方法や編集を工夫して、表現している。	他の生徒の作品などの良さや美しさ、作者の意図と表現の工夫、映像メディア表現の特質や表現の効果などを感じ取り、生活や社会を心豊かにする美術の働きについての理解を深めている。

(2) 学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 関① テーマを踏まえ感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして表現することに関心をもち、主体的に主題を生成し、表現効果や伝達効果を考えながら工夫して構想を練ろうとしている。 表現 関② 映像メディア機器等の様々な用具の特性やそれらの効果を主体的に生かし、表現方法や編集を工夫して表現しようとしている。 鑑賞 関③ 他の生徒の作品などの良さや美しさ、作者の意図と表現の工夫などに関心をもち、理解しようとしている。 鑑賞 関④ 映像メディア表現の特質や多様な表現効果に関心をもち、作品や作者について理解しようとしている。 鑑賞 関⑤ 生活の中にある造形的な良さや美しさなどに関心をもち、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解しようとしている。	発① 映像メディアの特性を踏まえ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に主題を生成している。 発② テーマを踏まえ主題を表現するために映像表現のもつ視覚的要素について理解し、表現効果や伝達効果を考え、工夫して表現の構想を練っている。	創① 映像メディア機器等の様々な用具の特性を理解し、意図に応じてそれらの効果を生かして表現している。 創② 映像メディア機器等の様々な特性を生かし、効果的な表現方法や編集を工夫して表現している。	鑑① 他の生徒の作品などの良さや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、その特徴を捉えて分析するなどして、作品に対する見方や感じ方、考えなどをもち、理解している。 鑑② 映像メディア表現の特質や視覚的效果を生かした独自の表現効果などを感じ取り、作品の主題や作者の表現意図、効果的な表現の工夫などを読み取り、理解している。 鑑③ 生活の中にある造形的な良さや美しさなどを感じ取り、生活や社会を明るく心豊かにし、向上させる上で美術がもつ意義や働きを理解している。

7 指導と評価の計画（4時間）

学習のねらい ※「●」は、学習のねらい 「・」は、学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点
	関	発	創	鑑	
1. 課題の把握と発想・構想（1時間） ●課題について理解する。 ・「驚き盤」の参考作品を鑑賞し、表現の特性や工夫について意見を述べ合う。また、制作の流れを確認する。 ●映像メディア表現の視覚的要素や表現効果などを理解し、テーマを踏まえ主題及び構想を練る。 ・「ゆるキャラを動かそう」というテーマから主題（キャラ設定と6コマ分の動かし方）を考え、アイデアスケッチなどにより構想を練る。	↓ 関①	↓ 発① ↓ 発②			<美術への関心・意欲・態度> <u>関①</u> ・生徒全体の反応を掴みつつ、題材に関心がある生徒や制作の流れを理解できていない生徒、アイデアに苦労している生徒へ小まめに声をかけをし、意欲が高まるよう指導する。 【意見を述べ合う様子】 <発想や構想の能力> <u>発①</u> ・キャラ設定と動かし方を決めることが課題の土台なので、特に主題を生成できていない生徒には個別の手立てを講じる。【ワークシートの記述】 <u>発②</u> ・「驚き盤」の特性を生かし、工夫して表現の構想を練れているかを見取る。アイデアが形成されていく中で、構想が練れていない生徒へ個別の手立てを講じる。【アイデアスケッチ】
2. 制作（2時間） ●構想を基に自分の意図に合う表現方法を工夫する。また、主題を追求し、表現を深める。 ・最初の一コマ目を決め、動かす箇所を変化させながら6コマ分を下描きする。その後、油性ペンや色鉛筆を使って完成に近づける。	↓ 関②	↓ 発② ↓ 創① ↓ 創②			<美術への関心・意欲・態度> <u>関②</u> ・制作の意図に応じて映像メディア表現の材料や用具の特性、表現方法を工夫しているかを見取る。【制作の様子、途中の作品】 <創造的な技能> <u>創①②</u> ・制作の意図に応じて描画材を工夫して使用し、主題を追求するために、下描きをしながら構想がいかに実現、変化するか様子を見取る。下描きができない生徒、表現に工夫が見られない生徒には構想の見直しをアドバイスしつつ、個別に指導する。【制作の様子、途中の作品】
3. 鑑賞（1時間） ●他の生徒の作品から、映像メディア表現の特質や意図、表現の工夫などを感じ取り、理解する。 ・班ごとにろくろとストロボ光を使い作品を鑑賞し、表現の特性や工夫について批評し合う。 ●現代の映像表現について鑑賞し、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて関心を持ち、理解する。 ・本課題のまとめをし、現代の映像表現「プロジェクション・マッピング」について参考作品を鑑賞し、意見を述べ合ったり、ワークシートにまとめたりする。	↓ <u>関③</u> <u>関④</u> <u>関⑤</u>				<美術への関心・意欲・態度> <u>関③④⑤</u> ・作品鑑賞や各班の鑑賞活動の様子から、映像メディア表現へ関心や意欲を見取る。作品を見た際の反応をなかなか言葉にできない生徒には積極的に声をかけをし、ヒントを与える。【作品鑑賞や班の鑑賞活動の様子】 <鑑賞の能力> <u>鑑①②③</u> ・他の生徒の作品や現代の美術作品を鑑賞し、自分の考えや意見を明確に述べるなどして、作品や作者の意図、生活の中にある造形の良さや美しさ、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて感じ取っているかを見取る。【発言、ワークシート】
※授業終了後 【アイデアスケッチ等からの評価】 【完成作品等からの評価】 【その他ワークシート等からの評価】		<u>発①</u> <u>発②</u>	<u>創①</u> <u>創②</u>	<u>鑑①</u> <u>鑑②</u> <u>鑑③</u>	<u>発①②</u> <u>創造①②</u> <u>鑑①②③</u> の評価を完成作品から改めて見直し、授業内における評価も再確認し、必要に応じ修正する。その他ワークシートなども併せて見取ることも評価上大切である。

8 本時の学習について（3、4時間／全4時間）

（1）目標

- 描いた絵が動き出す場面を目の当たりし、主体的に楽しんで制作や鑑賞に取り組む。
- 単に制作に終始するのではなく、教師の投げかけ（発問）に沿って自分なりの感じ方や考えを持ち、ワークシートの記入や発表などで言葉にする。
- 過去と現代の映像表現の繋がりに思いを馳せ、生活や文化の中にある美術の役割や良さ、楽しさについて理解する。

（2）展開

		学習活動	指導上の留意点	評価と手立て ◎「十分満足できる」状況 ■「努力を要する」生徒への手立て
3時間目 (第5校時)	導入(15分)	●授業の予定を聞き見通しを立てる。 ●ストロボ光による「驚き盤」の実演を見る。 ●教師の投げかけについて確認・理解する。	●出欠確認後、生徒を落ち着かせ、聞かせる体制をつくる。 ●一か所に生徒を集めるため、全員がしっかり見られるよう交通整理する。 ●着席後、改めて落ち着かせ、発問を投げかける。	関② ・制作の意図に応じて映像メディア表現の材料や用具の特性、表現方法を工夫しているかを見取る。【制作の様子、途中の作品】 ◎「驚き盤」実演を自らの制作意欲に変え、作品を見直しつつ材料にこだわり丁寧に制作できている。 ■参考作品や制作過程を個別に確認させつつ、本時点での制作状況を認め、意欲を湧かせる。
	展開(30分)	●先週の続きとして、「驚き盤」の6コマの下描きと油性ペン、色鉛筆での彩色等を進める。	●先週欠席した生徒を含め、コマの下描きを終わらせていない生徒に個別にアドバイスを行う。	創② ・制作の意図に応じて描画材を工夫して使用し、主題を追求するために、下描きをしながら構想がいかに実現、変化する様子を見取る。【制作の様子、途中の作品】 ◎初めの構想を踏まえ、見えやすい線と動かし方を表現し、色鉛筆等を使って丁寧に制作できている。 ■動かし方などを見直させ、完成までの見通しをつけさせる。
	まとめ(5分)	●進行の度合いと次の時間の予定を把握する。 ●班体形に机と椅子を移動する。	●制作が遅れている生徒に、最後に何をすべきか気付かせる。 ●班行動と班内の役割を理解させる。	
4時間目 (第6校時)	導入(10分)	●終わっていない部分があれば制作を調整する。また、教師の話の聞き、投げかけについて思いを巡らす。	●全員が目標まで達しているか把握し、発問に関するヒントを述べる。生徒の声を拾ったり、関心の持っていない生徒に個別に声をかけたりする。	関③④⑤ ・作品鑑賞や各班の鑑賞活動の様子から、映像メディア表現へ関心や意欲を見取る。【作品鑑賞や班の鑑賞活動の様子】 ◎鑑賞活動全体を通して、自ら行動や反応を示し、また、友人などと積極的に交流している。 ■個別に作品の見方や観点などのヒントを示す。
	展開(25分)	●班ごとにろくろとストロボ光を準備し、一人ひとりの作品を順に鑑賞する。 ●ワークシートに、これまで気付いたことや考えたことを記入する。時間により班ごとに発表する。	●班内の鑑賞や意見交換に入れている生徒へ個別に声をかける。ストロボ光で体調不良がないか気にかける。 ●記入できない生徒に個別に声をかけたり、友人同士で話し合ったりするよう促す。時間により発表させる。	鑑①②③ ・他の生徒の作品や現代の美術作品を鑑賞し、自分の考えや意見を明確に述べるなどして、作品や作者の意図、生活の中にある造形の良さや美しさ、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて感じ取っているかを見取る。【発言、ワークシート】 ◎鑑賞活動全般を通して、自ら考えや意見を述べたり、ワークシートへ記入したりしている。 ■参考作品やヒントとなるキーワードを示し、感想を引き出す。
	まとめ(5分)	●全体のまとめを聞き、教師の準備した映像作品を鑑賞する。ワークシートへ記入する。 ●時間まで片づけを行う。	●話や参考作品の鑑賞に対して集中力が切れている生徒へ個別に声をかける。 ●ゴミの無いよう片付けさせ、必要なものを提出させる。	

9 成果と課題

(1) 成果

- ・ 「驚き盤」はアイデアや絵を苦手としている生徒には発想の段階でつまづく可能性のある題材だが、今回は4時間という設定の中、既成キャラクターの一部分を動かすことを考えるようテーマを絞ったので、どんな生徒も分かりやすい動きを追及でき、成果を鑑賞し易かった。
- ・ ストロボ光を当て「驚き盤」を暗闇の中で回し、アニメーションとして映像が浮かび上がった際の生徒の反応は極めて大きく、「すごい」「えっ、何で」などの歓声が上がった。初めて目の当たりにした生徒がほとんどで、映像メディアを新たな芸術表現との出会いとして設定した意義は大きかったと言える。その直後の制作についても、自分の作品をアニメとして見たいという思いから、ほとんどの生徒が熱心に完成へ向けて制作していた。
- ・ 「アニメーションがなぜ動いて見えるのか（①残像現象、②画像と画像の間や次の画像を埋めようとする人間の想像力）」について考えさせるため、授業の初めに生徒へ同発問を投げかけた。その一つとしてあらかじめ「残像現象」について解説した後、“もう一つの答えがあること”を示し探求させた。授業中、ヒントを挙げ、「どう感じるか、どう思うか、頭の中で何が起きているか」といった投げかけを続け生徒の反応を待った。班ごとに生徒の作品鑑賞会を開き、友人同士でワークシート使いながら答えについて議論させた。生徒の記述からは「(頭の中で) 映像のように飛んでいるように見えた」、「コマ送りのように点滅しながら再生された」「動いてないのになぜ動いて見える？」という素直な驚きや「スローモーションのようにも感じる」などのコメントもあった。「アニメーションがなぜ動いて見えるのか」という投げかけに対しては、答えに窮する生徒が多かったが、一部の生徒から「妄想力」、「想像現象」、「予知」、「予想する力、脳内予想」、「予測」などの鋭い記述・発言が出た。教師が答えを言うのではなく、ヒントと投げかけの仕方が発想が広がり、アニメの仕組みについて自分なりの考えを導き出せた生徒がいたことは大きかった。
- ・ 授業の最後に「プロジェクション・マッピング」の映像作品から、表現やデザイン、または広告やスマートフォンを用いた参加型の映像イベントなどを数例見せ、その社会的役割を解説した。同時に、生徒の学習した「驚き盤」への連続性を感じさせるため、“表現する形や手段は異なるが、紙の上の「驚き盤」も、立体物に映像を映し出す「プロジェクション・マッピング」も、残像現象や人間の想像力によって見える仕組みという点では全く同じものである”という解説をした。時間の都合上、その場では生徒から直に声を聞けなかったが、作品は誰もが固唾を呑んで鑑賞していた。ワークシートには「ビデオの映像はすごいけど、原理は今、私達がやっている授業と同じなのだと分かった」、「ここまで映像が進化しているとは思わなかった」、「映像でみんなと繋がることのできるというのが凄い」などの記述があった。生徒が単に題材に終始するのではなく、そこから映像表現の良さや特徴を考え、映像を通して身近な生活や社会との新たな出会いが生まれたことに意義があった。

(2) 課題

今回は計画の都合上、あるいは中学から高校への接続段階における“映像表現との出会い”に力点を置いたため、4時間という比較的短い時間での学習とした。しかし、映像と言ってもその題材は様々であり、他にソーマトロープやゾートロープなどもある。また、発想や描画に重点を置き「驚き盤」の制作時間を増やしたり、クレイアニメに近いものやコマ撮り写真でもアニメーションに仕

立てたりすることができる。従って、中学校段階との接続を意識した上で、どのようなテーマや題材をどれほどの時間でどのように提示していくかが今後の課題である。

授業の内容を改めて振り返ると、「驚き盤」を制作しながら「アニメーションがなぜ動いて見えるのか」について考える機会と「映像と身近な生活や社会がどのように関わっているのか」を知る機会とに、大きく分類される。前者については、生徒への発問を繰り返しながらアニメの仕組み特徴について考えさせたが、ヒントを出したとは言え、それを発言やワークシートの記述にすることに困難を感じていた生徒も少なからずいた。生徒が制作している「驚き盤」と教師のヒントがどのように直結しているのか、もう少し具体的に判明するよう導くことで生徒の発言も広がったのではないだろうか。後者については、時間の関係上、一方的に情報を伝えるのみになってしまった。また、“なぜ「プロジェクション・マッピング」を紹介するのか”という「驚き盤」との関連性が明確ではなかった。教師が解説するのみではなく、制作するものと紹介するものとの共通点や違いを、生徒が自分の考えで抽出し、実感できるようなきっかけがあれば、映像に出会ったことへの実感や喜びが増したのではないかと考えられる。



「驚き盤」—アニメーションの基礎

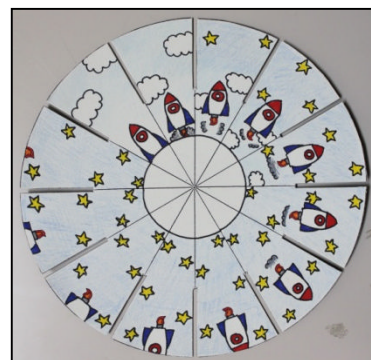
2013年11月 1年次 3～4時間

①驚き盤

右図のように円盤を数コマに分け、絵が少しずつ移り変わるように表現したもの。

円盤を回転させ、ストロボ光（点滅する光）を当てると、絵が動きだしたように見える。

驚き盤は「アニメの基礎」！



12コマ

②アニメーション/animation とは？

動画（どうが）のこと。動きのない画像をたくさん積み重ねることにより、絵や画像が連続して変化するように見せる映像の手法である。

anima(アニマ):ラテン語で「靈魂」 “生命を吹き込む”という意味がある。

③どうして絵が動いて見えるのか？（映画の例）

映画はフィルムの一コマが連続して流れるのではなく、時計の針のように止まりながら動いている。一コマの画像が止まり、見え、その画像が脳裏に残っている間に、次の画像が止まり、見え・・・という流れを繰り返すとスムーズに動画として見えるようになる。



動いて見えるのは人間の感覚＝脳の機能！「残像現象」ともいう。

実際に

手順1) テーマをもとに、ネタ探しとアイデアを練る。

手順2) 一コマを下描きし、6コマ分を転写。動かしたい部分を修正&描写する。

手順3) 油性ペンで輪郭線をしっかりとなぞり、色鉛筆などで濃く彩色する。

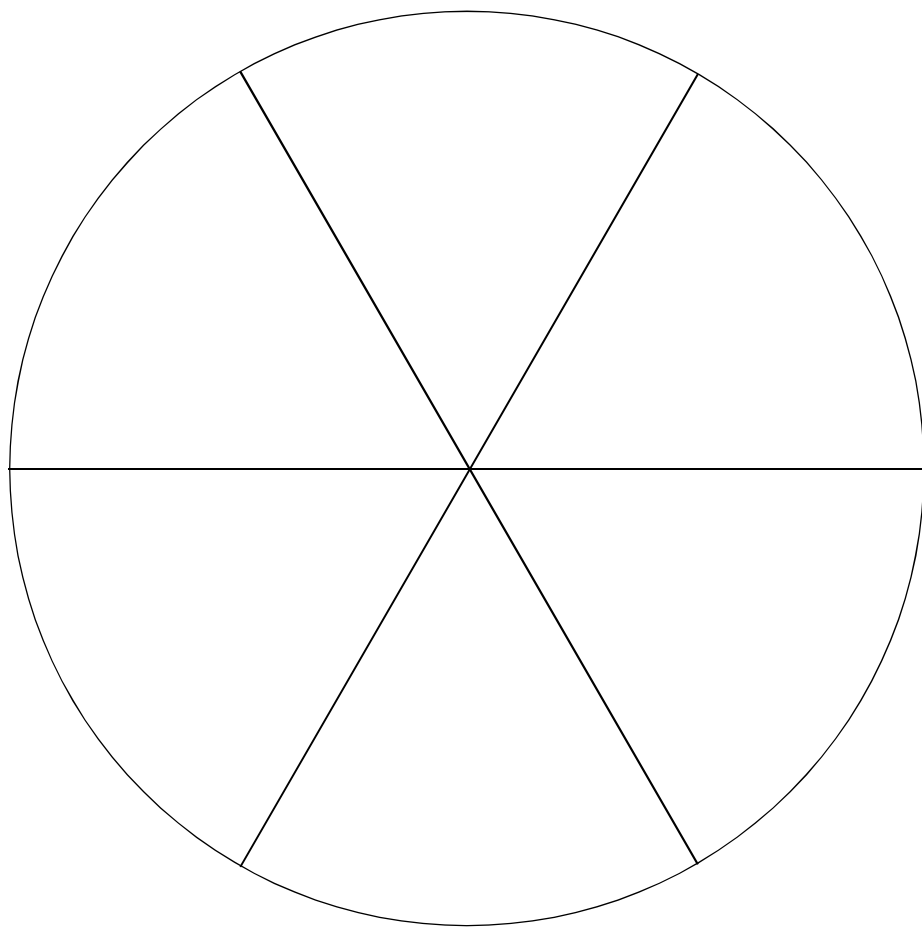
手順4) “ろくろ” にセットし、回転させながらストロボ光を当てて鑑賞する。

「驚き盤」を制作してみよう！

テーマ:「ゆるキャラ」を動かそう!

アイデア&下描き用紙

下の6コマはアイデアスケッチに使って下さい。ゆるキャラの“どこを、どのように動かすか”、しっかり考えよう!

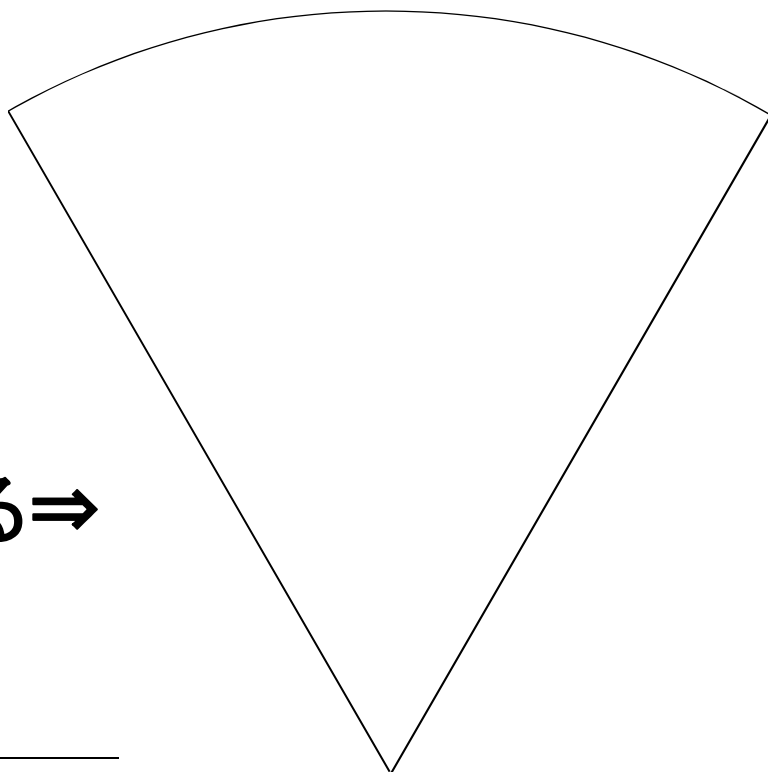


選んだゆるキャラ

地域

どこを、どのように動かすか

大まかに構想が練れたら、最初の一コマ目を下描きしましょう。終わったらトレーシングペーパーを重ねて写し(枠ごと写す)、裏面を濃い鉛筆で塗りましょう。



できるだけ
枠内に大きく入れる⇒

年 組 番 氏名

異校種間の交流を踏まえた掲示物の充実 — 小中学校をつなぐ環境づくりの工夫 —

実践者 教諭 古屋美恵子

1 掲示物名

わくわく中学校アートギャラリー

2 掲示の意図

本校の児童は図画工作の時間を楽しみにしており、創作活動に意欲的に取り組んでいる。しかしながら学年が上がるにつれ、図工の時間は好きではあるが、自分の思う通りに表現ができなかったり、友達と自分の作品を比較して劣等感を感じたりして表現への苦手意識をもち始める児童も増加する傾向にある。



そこで、表現への可能性や楽しさ、わくわくする気持ちを感じてもらうきっかけとして、第5・6学年の児童を対象に、中学校の生徒の作品を鑑賞することのできる掲示コーナーをつくった。作品は、本校児童の進学先の1つである深谷市立南中学校の生徒作品をお借りした。有名な作家の作品や学区外の学校の生徒の作品ではなく、自分たちの進学する中学校の身近な先輩の思いや表現にふれることで、数年後の自分の姿を想像し、中学校美術への期待感を抱かせることができると考え実践を行った。

3 掲示するまでの経緯

本校児童の進学先の中学校は主に2校あるが、今回は深谷南中学校にお願いをして作品を貸していただいた。6年生を対象とした中学校の入学説明会が実施される時期にあわせてお借りし、特に6年生に興味・関心をもってもらえるようにした。

〈一連の流れ〉

校長先生に中学生の作品を展示したい旨を伝え、作品の展示スペース、展示内容について大まかに相談をする。



南中学校へ連絡し、美術教諭に「作品をお借りできないか」と依頼。快く引き受けていただいた。その際、どんな作品が貸し出し可能か、小学生に見せるにはどんな作品がよいか打ち合わせを行う。



作品の借り入れ。今回は、共通の出張の際に作品の受け渡しを行う。

作品について、先方より簡単にお話を伺って学校へ持ち帰る。



1ヶ月ほど5・6年生の教室のある廊下に展示する。



作品返却をする。(児童の感想や意見をまとめたものなどとともに)



4 掲示内容

作品の展示にあたって、中学校の美術教諭と打合せをし、小学生の児童にもなじみの深い題材や画材の作品を中心に展示を行うよう設定した。また、中学校美術について興味を抱かせ、より詳しく児童に知ってもらうために、美術という教科に関する掲示も併せて行った。以下が展示内容の詳細である。

(1) 中学校生徒作品

漢字のデザイン（絵文字）【中1】2点

小学生にもなじみの深い漢字を題材とした絵文字。既習の漢字で意味もよく知っているので、関心をもって鑑賞できる題材であった。デザインもわかりやすく、興味津々に見入っていた。



ビンの構成【中1】

スクラッチ・コラージュ等の技法を用いた構成。英字新聞が貼ってあるところに注目している児童が多かった。画材も、小学校ではなじみ深いクレヨンを用いているため、より身近に感じられたようだ。



ペン画（花の構成）【中2】

空想の花を構成したデザイン。にじみ・ぼかしを使ってつくった画面の上 にペンを使って描いている。細密な描写と、ペンを使って描くというところが、小学生には新鮮にうつったようだ。



風景画【中3】

写生会で風景画を描いているので小学校の児童にとっても身近な題材。中学生の緻密な表現や陰影のつけ方に感心していた。



構成【中3】

色鉛筆を使った構成。色鉛筆も小学生にとって身近な描画材であり、自分たちが慣れ親しんでいる画材でここまで表現ができるのかというところに感心していた。



(2) 中学校美術に関する掲示

- | | |
|------------------|------------------|
| ・教科名の変化（図画工作→美術） | ・美術の学習内容 |
| ・教科担任制について | ・どんな画材や材料を使用するのか |



5 児童の感想より

- かげや光がうまくかかれています。すごいと思いました。同じ色でも、うすかったりこかったりしているところがあって、色の使い方を工夫していると思いました。
- 私たち小学生が発想できないようなきれいな作品やユニークな作品がいっぱいあって、中学生はすごいなあと思いました。
- 中学生の作品は色使いがよく、建物などは本物のようでとても上手でした。自分の作品とはぜんぜんちがいました。ぼくも、中学校でこのような絵がかきたいです。
- 中学校ではこんなことをするんだと勉強になりました。発想がおもしろいです。
- かげにまでこだわってかいていて、本物のようで写真みたいでした。わたしも参考にしたいと思います。
- 筆使いがとてもいいで、色づかいもきれいです。中学校に行ったら、私もこんな風にもっときれいな絵がかきたいです。

6 成果と課題

<成果>

展示直後より、足を止めて作品に見入っている児童の姿が数多く見られた。児童の感想からも、中学生の作品の素晴らしさを感じることができたことがうかがえる。また、書き方や色の塗り方など参考となることが多く、「真似して描いてみたい」という声がたくさん聞かれた。高学年の児童にとっては中学校での学習のイメージをもち、中学校生活に期待を膨らませるきっかけとなったと感じた。展示終了後にアンケートによる実態調査を行ったところ、91%の児童が「中学校で美術の授業を受けるのがとても楽しみ・楽しみ」と回答した。

<課題>

中学校にも小学生の作品を展示してもらい、相互に作品交流ができるとさらに思いが深まると感じた。小学生にとっては何年後かの自分の姿、中学生にとっては数年前の自分を振り返ることにより自分の成長を確認できる場となりよい経験ができるのではないだろうか。

また、今回お借りすることのできた作品は平面作品のみであったが、立体作品の展示も併せて行うことで、さらに中学校への憧れや表現することへの意欲が深まると感じた。

来年度はぜひ上記のような機会が設けられるよう働きかけ、創意工夫のある交流活動を継続実践していきたい。

美術 展示計画案

実践者 教諭 鈴木佐和子

1 展示名 「版画の世界」～美術との出会い～

2 研究課題

発達の段階に応じた豊かな芸術との出会いから、学校間の指導の違いや、児童生徒の意識の違いに、一貫性や連続性をもたらし、学校間の接続を円滑にする。

3 実践について

(1) 生徒の実態

本校は日高市唯一の高校で、地元に根付いた素直で気持ちの優しい生徒が多い。しかし外部への関心が薄く、物事への興味関心、集中力や自己肯定感に欠ける所がある。芸術教科は選択なので、全員美術を受けるわけではなく、基本的には美術に興味があり選ぶ生徒が多い。しかし中には、楽そう、他の教科は苦手など消極的な理由で選ぶ生徒も少なからずいる。美術を選択する生徒に対しては、版画の系統性を学ぶことにより、美術への思いをより良いものとする。それとともに、普段、美術と接することが少ない生徒にむけては、新たな美術の出会いの場を提供したい。

(2) 題材について（小中高連携の意義）

今回の活動では版画についての掲示を行う。以下にその意義となる事柄を述べる。

- 授業に関係する版画の掲示で、版画の系統性を学ぶことによって、興味を深めることができるのではないか。
- 他の版画作品に対し、素直に「自分もやってみたい」と憧れをもって、今後やってみようというきっかけになるのではないか。
- 掲示による作家との出会いを通じて、より身近に感じてもらえるきっかけになるのではないか。
- 高校美術の選択者以外の生徒にも鑑賞する機会ができるので、豊かな美術の出会いの場を提供することができるのではないか。

4 実践の目標

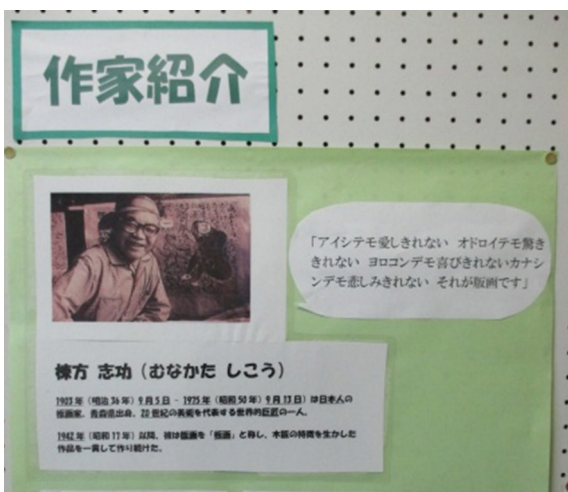
- 版画の世界の掲示を通して、その仕組みや特性を考えたり、高校美術の良さや楽しさ、驚きを主体的に味わう。
- 生徒作品と 作家の作品を展示することにより身近なものに感じてもらう。
- 授業と関連することにより、版画の興味関心をさらに深める。
- 授業を選択していない生徒にも、新たな美術の出会いの場を提供する。

5 実践計画

- (1) 2学期11月から1年生の美術で、銅版画（ドライポイント）の制作を行うので、それに関連して「版画の世界」と題して、美術室前に展示ボードを使い展示を計画。
- (2) 写真のコピーや作品など、資料を集める。
- (3) 見て分かりやすいよう色紙を使って掲示の準備。
- (4) 美術室前に展示ボードを使って掲示。
- (5) 美術Iの版画の授業内で版画の紹介を交えて掲示について紹介。

6 掲示内容

- 版画の系統性が分かりやすいように版画の分野を凸版、凹版、平版、孔版の4つに分けて紹介。
- 実物の生徒作品を掲示。
- 材料や用具の紹介。
- 同じ技法の作家作品の紹介。
- 技法に関係する、著名な作家を紹介するコーナーの紹介。



7 成果と課題

<成果>

- 授業に関係する版画の掲示で、版画の系統性を学ぶことによって、興味を深めることができるのではないかと。
- 授業での説明で銅版画が理解できない生徒も多くいたが、掲示と一緒に説明することによりイメージしやすくなった。また銅版画だけでなくほかの技法も一緒に紹介することにより、「あっこれ見たことある」「やったことある」など体験したことのある技法もあったのでより身近に感じたようだ。
- 他の版画作品に対し、「自分もやってみたい」と憧れをもって感動できるのではないかと。
- 今回銅版画の制作だったが、説明したときに木版画などは、やったことがある生徒も多く反応が多かった。また、簡単にできる消しゴムはんこなどを紹介すると、やってみたいという生徒が多くいた。
- 掲示による作家との出会いを通じて、より身近に感じてもらえるきっかけになるのではないかと。
- ただ作品を掲示するだけでなく作家の名言や生い立ちなどを紹介すると身近に感じ興味をもってくれたようだった。
- 高校美術の選択者以外の生徒にも鑑賞する機会ができるので、豊かな美術の出会いができるのではないかと。
- 他の生徒になかなか意見を聞く機会をもてなかったが、1年生は、同じフロアで、移動教室の通り道なので、見てくれる生徒も多くいた。

<課題>

- 今回このような掲示をするのは初めてだったので、短い期間だと生徒の変化を読み取るのは難しかった。今後も掲示物を工夫することによって、生徒の変化を観察したい。
- 準備に時間がかかるので、展示を頻繁に変えるのは難しい。学期ごとや課題を変えるタイミングで展示を変えるだけでも、環境は充実すると思われる。
- 今回あまり実物の作品を展示できなかったのが、作家の作品などを借りて展示や、他の学校の作品を借りて展示したい。
- 掲示だけだと、なかなか興味を持ってもらうのは難しいので、参加できるクイズ形式など、観ている人が参加できるコーナーや生徒が企画して展示を考えるなど工夫が必要だと感じた。
- 今回は版画をテーマに行ったが、現代アートやアニメ、漫画等より社会と繋がる掲示ができると面白いのではと感じた。